

II

授業科目と履修方法

1. 授業科目

領域	教育内容	コード	開講科目名	時間数と単位数		年間 コマ数 合計	開講時期 (●印)	
				必修			春	秋
				時間数	単位数			
人間と社会	基礎教養科目	2853	介護福祉制度	15	1	8		●
介護	介護の基本	2854	介護福祉基礎学1	30	2	15	●	
		2855	介護福祉基礎学2	30	1	15	●	
		2856	介護福祉基礎学3	60	2	30	●	
		2857	介護福祉基礎学4	60	2	30	●	
	コミュニケーション技術	2860	コミュニケーション技術1	30	1	15	●	
		2861	コミュニケーション技術2	30	1	15	●	
	生活支援技術	2865	生活支援技術1	60	2	30	●	
		2866	生活支援技術2	60	2	30	●	
		2867	生活支援技術3	30	1	15		●
		2868	生活支援技術4	30	1	15	●	
		2869	生活支援技術5	90	3	45		●
		2870	生活支援技術6	30	1	15		●
	介護過程	2875	介護過程1	30	2	15	●	
		2876	介護過程2	60	2	30		●
		2877	介護過程3	30	1	15		●
		2878	介護過程4	30	1	15		●
	介護総合演習	2880	介護総合演習1	30	1	15	●	
		2881	介護総合演習2	30	1	15		●
	介護実習	2885	介護実習	210	7	105	集中	
	こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	2886	発達と老化の理解	30	2	15	●
認知症の理解		2887	認知症の理解	60	2	30		●
障害の理解		2888	障害の理解	30	1	15		●
こころとからだのしくみ		2889	こころとからだのしくみ	60	2	30		●
医療的ケア	医療的ケア	2891	医療的ケア1	30	1	15	●	
		2892	医療的ケア2	60	2	30		●
			合計	1245	45	623		

2. 履修方法

- 学生は1年以上在学し、45単位以上を取得しなければならない。

開講年度・開講学期	2020年度 秋学期		授業コード	28530			
科目	2853 介護福祉制度		授業種別	週間授業			
担当教員	葛谷 潔昭		単位数	1			
その他担当者							
授業概要	本講義は、保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、以下の内容について学びます。(1) 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に学習をする。(2) 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。(3) 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。(4) 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎						
授業の到達目標	① 地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度・施策を理解し、説明することができる。② 社会保障の現状と課題や社会保障制度の基本的な考え方としくみを説明することができる。③ 高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題を説明することができる。④ 障害者福祉の現状と課題や障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容を理解し説明することができる⑤ 人間の尊厳と自立に関わる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解し、説明することができる。						
テキスト（教科書）	最新 介護福祉士養成講座1『人間の理解』編集介護福祉士養成講座編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5761-8 最新 介護福祉士養成講座2『社会と制度の理解』編集介護福祉士養成講座編集委員会：中央法規出版 『介護福祉用語辞典』中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5094-7						
参考書および参考文献	『見て覚える！介護福祉士国試ナビ2021』中央法規出版（未刊、2020年7月発行予定）						
受講条件	特になし						
事前・事後学習（内容・時間）	毎回、授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（30分程度） 毎回、授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（60分程度） 毎回、授業内で指示する内容について、事前に調べて授業に参加すること（60分程度） 第9回定期試験（小テスト等の復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと）（120分程度）						
成績評価	遅刻・早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。						
評価項目	割合		評価基準				
課題レポート	20%		課題に対する適切な内容・記述となっているのか評価する。				
小テスト	30%		講義内容の理解度を確認する				
定期試験	50%		筆記試験にて、理解度を確認する				
授業の実施方法と授業計画	第1回 オリエンテーション 介護をめぐる社会状況（人口動態、人口予測、介護の費用等） 社会保障の基本的な考え方 日本の社会保障制度の発達 日本の社会保障制度の仕組みの基礎的理解 生活と福祉における社会保障制度 第2回 高齢者保健福祉の動向 高齢者保健福祉に関連する法体系 介護保険制度（1） 第3回 介護保険制度（2）、高齢者・障害者医療制度 第4回 障害者保健福祉の動向 障害者保健福祉に関連する法体系 障害者総合支援制度 障害児福祉と保育、療育 第5回 介護実践に関する福祉制度・施策 第6回 保健医療に関する制度・施策 第7回 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策 第8回 地域生活を支援する制度・施策 ※但し受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある						
ナンバリング	WSFM6001						

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期				授業コード	28540		
科目	2854 介護福祉基礎学 1				授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	吉田 節子				単位数	2		
その他担当者								
授業概要	<p>介護福祉士は介護サービスを提供する中核的な役割を担う国家資格である 人間理解と尊厳を学び介護における尊厳の保持・自立支援を理解する 介護福祉士の法的理解と専門職としての倫理を理解する 介護福祉士の専門職能団体について学ぶ 介護福祉士を取り巻く状況から求められる社会的役割について理解し、今後のキーワードとなる地域連携、他職種協働について学ぶ</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5			
ディプロマポリシーとの関連性	◎				◎			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳と自立を学び、介護における尊厳の保持・自立支援について説明することができる 介護福祉士を取り巻く状況から、介護福祉士誕生と社会的役割について説明することができる 介護の歴史と介護問題の背景について説明することができる 介護における生活支援・自立支援について説明することができる 介護福祉士を取り巻く状況から求められる介護福祉士像について説明することができる 社会福祉士及び介護福祉士法の介護福祉士の定義と義務について説明することができる 介護福祉士に求められる職業倫理、専門職能団体の活動について説明することができる 利用者の人権と介護について説明することができる プライバシーの保護について説明することができる 介護実践における他職種連携の意義・目的・活動について説明することができる 介護実践における地域連携の意義・目的・活動について説明することができる 							
テキスト（教科書）	<p>最新 介護福祉士養成講座第1巻『人間の理解』編集介護福祉士養成講座編集委員会：中央法規出版 ISBN978-4-8058-5761-8 最新介護福祉士養成講座3巻『介護の基本Ⅰ』編集介護福祉士養成講座編集委員会：中央法規出版 ISBN978-4-8058-5763-2 最新 介護福祉士養成講座第4巻『介護の基本Ⅱ』編集介護福祉士養成講座編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5764-9 七訂介護福祉用語辞典 中央法規出版編集部 2015年 中央法規出版 ISBN978-4-8058-5094-7</p>							
参考書および参考文献	<p>厚生労働省の各種資料 教材ビデオ 専門図書・新聞記事など随時プリント配布</p>							
受講条件	履修条件はありません							
事前・事後学習（内容・時間）	<p>予習・復習の内容（2時間相当） 事前に、講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する 毎回授業後に、授業で得た学びについて、ノートを作成する 授業後に、授業で指示されたテーマについてレポートを作成する 授業内で指示する内容について、事前に調べて授業に出席する第16回定期試験重点項目の復習を行う</p>							
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退や劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。							
評価項目	割合		評価基準					
課題レポート	20%		課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する					
演習（グループワーク）	20%		グループワークの参加状況および貢献度を評価する					
定期試験	60%		筆記試験にて理解度を確認する					
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション 介護福祉士のイメージ 小規模多機能型居宅介護事業所のDVD学習 施設サービス・在宅サービスから地域密着型サービスを知る 第2回 社会福祉士及び介護福祉士法の定義・義務を説明できる 第3回 介護福祉士に求められる職業倫理 日本介護福祉士会倫理綱領を説明できる 第4回 人間の尊厳と自立と介護における生活支援・自立支援を説明できる 第5回 介護福祉士を取り巻く状況を説明できる 人口構造と介護問題・子育て問題 ダブルケア支援の重要性 第6回 2015年問題と2025年問題を説明できる 第7回 介護問題の社会的背景を説明できる 第8回 介護の歴史を説明できる 第9回 利用者の人権と介護 身体拘束禁止 虐待防止 プライバシーの保護を説明できる 第10回 介護福祉士の役割と機能を支える仕組み介護保険法と介護の現場を説明できる 第11回 介護福祉士の役割と機能を支える仕組み障害者総合支援法と介護の現場を説明できる 第12回 介護実践における多職種連携・医療職との連携を説明できる 第13回 介護実践における多職種連携・福祉職との連携を説明できる 第14回 介護実践における地域連携・他の人々との連携を説明できる 第15回 授業全体のまとめ 補足内容 Q & A 学力評価試験・国家試験対策 ※但し受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>							
ナンバリング	WSDKM6001							

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期				授業コード	28550		
科目	2855 介護福祉基礎学2				授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	大林 博美				単位数	1		
その他担当者								
授業概要	本講義では、保育士養成施設で学んだ内容を踏まえて、介護福祉の専門性と倫理を理解した上で、介護を必要とする乳幼児から高齢者の介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を学習する。具体的には、①介護における安全の確保とリスクマネジメントについて様々な事故を想定し検討する。②不慮の事故の背景になる利用者の身体状況、精神状況、環境面、介助方法など具体的に取り上げ、予防的方法を検討する。③介護従事者の安全の側面から腰痛予防、感染予防、ストレス、バーンアウトの予防など心身の健康管理についても学ぶ。④災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解する内容とする。介護における安全の確保とリスクマネジメントや介護従事者の安全についても学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5			
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○		○			
授業の到達目標	介護福祉の専門性と倫理を理解した上で以下のことを学ぶ。①様々な事故の要因を利用者の身体状況、精神状況、環境面から考え説明することができる。②さまざまな事例から具体的な生活支援を取り上げ、予防的方法を説明することができる。③介護従事者の安全の側面から腰痛予防、感染予防、ストレス、バーンアウトの予防など心身の健康管理についても説明することができる。④想定された災害時状況で発生することを時系列に説明できる。また、災害時におけるさまざまな場面での介護福祉士の役割と機能について説明できる。							
テキスト（教科書）	最新介護福祉士養成講座3巻『介護の基本I』編集介護福祉士養成講座編集委員会：中央法規出版 ISBN978-4-8058-5763-2 七訂介護福祉用語辞典 中央法規出版編集部 2015年 中央法規出版 ISBN978-4-8058-5094-7							
参考書および参考文献	最新介護福祉全書3「介護の基本」編集：メジカルフレンド社 専門図書・新聞記事など随時プリント配布							
受講条件	履修条件はありません							
事前・事後学習（内容・時間）	予習・復習の内容（2時間相当） シラバスを参考にして、予めテキストや資料に目を通しておくこと 復習をしておくこと							
成績評価	以下のとおりです。							
評価項目	割合			評価基準				
課題レポート	20%			課題に対して適切な内容になっているかを確認します。				
定期試験	60%			筆記試験により、理解度を確認します。				
演習（グループワーク）	20%			グループワークを通して、自分の意見が言え他者の意見を取り入れているか確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回 オリエンテーション 介護におけるリスクマネジメント 第2回 防災センター見学・防災フェア参加 第3回 介護における安全の確保介護 第4回 介護におけるヒヤリハット 第5回 介護におけるヒヤリハット 第6回 福祉避難所の実際と課題 文献検索 第7回 福祉避難所の実際と課題 文献検索 まとめ 第8回 福祉避難所の実際と課題 発表 第9回 レクリエーションで学ぶ要支援者の避難訓練の実際 第10回 レクリエーションで学ぶ要支援者の避難訓練の実際 第11回 介護における安全の確保とリスクマネジメント 第12回 介護における安全の確保とリスクマネジメント 第13回 感染予防の意義と対策 第14回 高齢者虐待法 児童虐待法 第15回 まとめ * 但し受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある							
ナンバリング	WSBM6001							

開講年度・開講学期	2020 年度 春学期～秋学期				授業コード	28560		
科目	2856 介護福祉基礎学 3				授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	村上 貴子				単位数	2		
その他担当者	葛谷 潔昭							
授業概要	<p>本講義は、保育士養成施設で学んだ内容を踏まえて、地域生活における家族・地域・社会の機能と仕組みについて学び、地域共生社会を目指す試みと実践活動を行う。</p> <p>以上から、人間らしい生活を営むために、介護福祉士として地域の生活支援のあり方について学ぶ。</p> <p>複雑化・多様化・高度化する介護を必要とする乳幼児から高齢者の主にインフォーマルな支援について理解し、地域共生社会における地域の生活支援について学ぶ。</p> <p>家庭生活の基本機能、家族の機能と役割、地域の特性とコミュニティ、自助や共助や公助のあり方、地域の暮らしを支える地域住民同士の活動のあり方について学ぶ。「地域共生社会」の考え方と「地域包括ケアシステムのしくみ」等、その社会や制度の実現を支えている住民活動に参加する。</p> <p>この科目の学びが関連する科目「介護福祉基礎学4」では、いかに専門職や機関が地域と連携しているかについて学ぶ。「介護過程3」では、この学びを活かして介護を必要とする人の地域生活のニーズに対する課題の要因を探る。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5			
ディプロマポリシーとの関連性					◎			
授業の到達目標	<p>①社会と生活の仕組みについて説明できる。</p> <p>②生活の基本機能について説明できる。</p> <p>③家族の機能について説明できる。</p> <p>④社会、組織と役割について説明できる。</p> <p>⑤地域の機能について説明できる。</p> <p>⑥地域生活を支えるインフォーマルな活動に参加し、その意義が説明できる。</p> <p>⑦乳幼児から高齢者が地域で生き生きと暮らすためにどのような支援を地域でいけばいいのか説明できる。</p> <p>⑧地域の暮らしを支える地域住民同士の活動どのような支援があるのか説明ができる。</p> <p>⑨尊厳、自立の視点から「地域包括ケアシステムのしくみ」や「地域共生社会」の実現を支えている住民活動の効果と課題について説明できる。</p>							
テキスト（教科書）	<p>1. 最新介護福祉士養成講座 第3巻『介護の基本Ⅰ』編集介護福祉士養成講座編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5763-2</p> <p>2. 最新介護福祉士養成講座 第4巻『介護の基本Ⅱ』編集介護福祉士養成講座編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5764-9</p> <p>3. 最新介護福祉士養成講座 第1巻『人間の理解』編集介護福祉士養成講座編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5761-8</p> <p>4. 最新介護福祉士養成講座 第2巻『社会の理解』編集介護福祉士養成講座編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5762-5</p> <p>5. 『介護福祉用語辞典』中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5094-7</p>							
参考書および参考文献								
受講条件	受講条件はありません。							
事前・事後学習（内容・時間）	<p>毎回、授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（30分程度）</p> <p>毎回、授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（30分程度）</p> <p>毎回、授業内で指示しないようについて、事前に調べて授業に参加すること（60分程度）</p>							
成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。							
評価項目	割合			評価基準				
課題・発表	20%			授業中の発表・発言も含む				
提出物	20%			必ず期限を守り提出をする。				
定期試験	60%			筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	<p>介護実践における連携 その1</p> <p>【葛谷】 地域生活における家族・地域・社会の機能と仕組み</p> <p>第1回 「家庭生活の基本機能（生活とは）」</p> <p>第2回 「生活の構成要素（労働と教育と健康のつながり）」</p> <p>第3回 「家族とは（家族の定義）」</p> <p>第4回 「家族の機能と役割（家族観の多様化）」</p> <p>第5回 「地域社会とコミュニティ（地域社会の特性と機能）」</p> <p>第6回 「地域社会と都市化」</p> <p>第7回 「地域社会と過疎化」</p> <p>第8回 「社会、組織の機能と役割」</p> <p>第9回 「複雑化・多様化・高度化する介護」</p> <p>「介護を必要とする乳幼児から高齢者の生活課題」</p> <p>第10回 「生活を支える支援・地域共生社会の実現に向けた制度や施策」</p> <p>第11回 「地域共生社会・地域包括ケアの限界と克服」</p> <p>第12回 「介護福祉士の視点からの地域福祉の発展への期待」</p> <p>第13回 「介護福祉士の視点からの地域福祉の発展への期待と課題」</p> <p>第14回 「地域連携と介護福祉士、社会資源」</p> <p>第15回 「まとめ」</p> <p>介護実践における連携 その2</p> <p>【村上】 地域共生社会を目指す試み実践活動</p> <p>第16回 ガイダンス 「その人らしさ・自分らしさ」</p> <p>第17回 子ども・高齢者の地域生活を支える住民活動 「まちの居場所」事例紹介</p> <p>第18回 「まちの居場所」</p> <p>第19回 「まちの居場所」 学外見学・研修</p> <p>第20回 「まちの居場所」 学外見学・研修</p> <p>第21回 「子ども食堂」事例紹介</p> <p>第22回 「子ども食堂」参加</p> <p>第23回 「子ども食堂」参加 学外研修</p> <p>第24回 「子ども食堂」参加 学外研修</p> <p>第25回 「地域連携・専門職連携・ボランティア連携」事例紹介</p> <p>第26回 「地域連携・専門職連携・ボランティア連携イベント」</p> <p>第27回 「地域連携・専門職連携・ボランティア連携イベント」</p> <p>第28回 「地域連携・専門職連携・ボランティア連携イベント」参加</p> <p>第29回 「地域連携・専門職連携・ボランティア連携イベント」参加</p> <p>第30回 「まとめ」</p> <p>※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>							
ナンバリング	WSKLM6001							

開講年度・開講学期	2020 年度 春学期		授業コード	28570																																																																																																																											
科目	2857 介護福祉基礎学 4		授業種別	週間授業																																																																																																																											
担当教員	大林 博美		単位数	2																																																																																																																											
その他担当者	皿井 幸代																																																																																																																														
授業概要	<p>本講座は、保育士養成課程を踏まえて、介護を必要とする各ライフステージにある人が尊厳ある人生を過ごすための生活支援ができる介護福祉の専門職としての能力と態度について学ぶ。</p> <p>■利用者のよりよい生活支援に向けて、生活支援に関する他職種の役割や連携のあり方を学ぶ。</p> <p>■具体的には、介護を必要とする人の尊厳ある人生や生活を支援するという観点から、フォーマル・インフォーマルな支援にどのようなものがあるか等、社会資源について知る。</p> <p>■多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉・教育に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。</p> <p>■介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習をする。</p>																																																																																																																														
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5																																																																																																																										
ディプロマポリシーとの関連性		◎																																																																																																																													
授業の到達目標	<p>■利用者のよりよい生活支援に向けて、生活支援に関する他職種の役割や連携のあり方を説明できる。1回～10回</p> <p>■介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働く効果、或いは、そのためにはどのようなことが必要かが説明できる。11回～15回</p> <p>■複雑多様化している介護ニーズに対応するため、保健・医療・福祉・教育の専門職の専門性や役割と機能について説明できる。16回～20回</p> <p>■介護を必要とする人や家族が地域で共生生活していくために尊厳ある人生や生活を支援するという観点から、フォーマル・インフォーマルな支援にどのようなものがあるか社会資源について説明できる。21回～30回</p>																																																																																																																														
テキスト（教科書）	<p>最新 介護福祉士養成講座第4巻『介護の基本Ⅱ』編集介護福祉士養成講座編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5764-9</p> <p>最新 介護福祉士養成講座第7巻『生活支援技術Ⅱ』編集介護福祉士養成講座編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5767-0</p>																																																																																																																														
参考書および参考文献	<p>■切り抜き速報 福祉ニュース 障害福祉編 高齢者福祉編 その他文献及び新聞記事等随時活用</p> <p>■『最新介護福祉全書 障害の理解』第11巻 メヂカルフレンド社</p> <p>■新・介護福祉士養成講座 7生活支援技術Ⅱ 第3版</p> <p>■ケアの基本がわかる重症心身障害児の看護 出生前から家族支援の緩和ケアまで へるす出版 ISBN978-4-89269-881-1</p>																																																																																																																														
受講条件	履修条件はありません。																																																																																																																														
事前・事後学習（内容・時間）	<p>毎回、授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（30分程度）</p> <p>毎回、授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（60分程度）</p> <p>毎回、授業内で指示する内容について、事前に調べて授業に参加すること（60分程度）</p> <p>中間試験・定期試験（小テスト等の復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと）（120分程度）</p> <p>新聞記事やTVなど「福祉」や「介護」に関する内容に関心を持って目を通しておきましょう。</p> <p>身近にみえる「介護を必要とされる方」があればいろいろ話を聞きましょう。</p>																																																																																																																														
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度できているかで評価します。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。																																																																																																																														
評価項目	割合	評価基準																																																																																																																													
課題レポート・ログ	20%	課題及び授業内容に対して適切な内容・記述になっているかで評価します。																																																																																																																													
グループワーク・演習	15%	課題に取り組む態度や理解度を確認し評価する。																																																																																																																													
小テスト	15%	講義内容の理解度を確認する。																																																																																																																													
定期試験	50%	筆記試験にて理解度を確認する。																																																																																																																													
授業の実施方法と授業計画	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>ガイダンス</td><td>大林</td><td></td></tr> <tr><td>第2回</td><td>介護における多職種連携の意義と課題</td><td></td><td>皿井</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>これから目指すべき多職種連携</td><td></td><td>皿井</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>会議の理解を深める</td><td></td><td>皿井</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>多職種連携の事例1</td><td>大林</td><td></td></tr> <tr><td>第6回</td><td>多職種連携の事例2</td><td>大林</td><td></td></tr> <tr><td>第7回</td><td>多職種連携の事例3</td><td>大林</td><td></td></tr> <tr><td>第8回</td><td>多職種とは</td><td>大林</td><td></td></tr> <tr><td>第9回</td><td>多職種連携の効果</td><td></td><td>皿井</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>多職種連携・協働に求められる基本的な能力</td><td></td><td>皿井</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>障害児・者支援施設における多職種連携</td><td></td><td>大林</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>障害児・者支援施設における多職種連携</td><td></td><td>大林</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>障害児・者支援施設における多職種連携</td><td></td><td>大林</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>認知症対応型共同生活介護における多職種連携</td><td></td><td>大林</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>認知症対応型共同生活介護における多職種連携</td><td></td><td>大林</td></tr> <tr><td>第16回</td><td>通所介護における多職種連携</td><td></td><td>皿井</td></tr> <tr><td>第17回</td><td>通所介護における多職種連携</td><td></td><td>皿井</td></tr> <tr><td>第18回</td><td>障害者支援施設における多職種連携</td><td></td><td>大林</td></tr> <tr><td>第19回</td><td>障害者支援施設における多職種連携</td><td></td><td>大林</td></tr> <tr><td>第20回</td><td>障害者支援施設における多職種連携</td><td></td><td>皿井</td></tr> <tr><td>第21回</td><td>障害者支援施設における多職種連携</td><td></td><td>皿井</td></tr> <tr><td>第22回</td><td>多職種連携・協働のためにチームづくり</td><td></td><td>大林</td></tr> <tr><td>第23回</td><td>地域包括支援センター見学</td><td></td><td>大林</td></tr> <tr><td>第24回</td><td>地域包括支援センター見学</td><td></td><td>皿井</td></tr> <tr><td>第25回</td><td>地域包括支援センター見学</td><td></td><td>皿井</td></tr> <tr><td>第26回</td><td>課題解決に対する多職種の関わり1</td><td></td><td>皿井</td></tr> <tr><td>第27回</td><td>課題解決に対する多職種の関わり2</td><td></td><td>皿井</td></tr> <tr><td>第28回</td><td>課題解決に対する多職種の関わり3</td><td></td><td>皿井</td></tr> <tr><td>第29回</td><td>課題解決に対する多職種の関わり4</td><td></td><td>皿井</td></tr> <tr><td>第30回</td><td>まとめ</td><td>大林</td><td></td></tr> </table> <p>※受講生の状況により順番が変更する場合があります。</p>							第1回	ガイダンス	大林		第2回	介護における多職種連携の意義と課題		皿井	第3回	これから目指すべき多職種連携		皿井	第4回	会議の理解を深める		皿井	第5回	多職種連携の事例1	大林		第6回	多職種連携の事例2	大林		第7回	多職種連携の事例3	大林		第8回	多職種とは	大林		第9回	多職種連携の効果		皿井	第10回	多職種連携・協働に求められる基本的な能力		皿井	第11回	障害児・者支援施設における多職種連携		大林	第12回	障害児・者支援施設における多職種連携		大林	第13回	障害児・者支援施設における多職種連携		大林	第14回	認知症対応型共同生活介護における多職種連携		大林	第15回	認知症対応型共同生活介護における多職種連携		大林	第16回	通所介護における多職種連携		皿井	第17回	通所介護における多職種連携		皿井	第18回	障害者支援施設における多職種連携		大林	第19回	障害者支援施設における多職種連携		大林	第20回	障害者支援施設における多職種連携		皿井	第21回	障害者支援施設における多職種連携		皿井	第22回	多職種連携・協働のためにチームづくり		大林	第23回	地域包括支援センター見学		大林	第24回	地域包括支援センター見学		皿井	第25回	地域包括支援センター見学		皿井	第26回	課題解決に対する多職種の関わり1		皿井	第27回	課題解決に対する多職種の関わり2		皿井	第28回	課題解決に対する多職種の関わり3		皿井	第29回	課題解決に対する多職種の関わり4		皿井	第30回	まとめ	大林	
第1回	ガイダンス	大林																																																																																																																													
第2回	介護における多職種連携の意義と課題		皿井																																																																																																																												
第3回	これから目指すべき多職種連携		皿井																																																																																																																												
第4回	会議の理解を深める		皿井																																																																																																																												
第5回	多職種連携の事例1	大林																																																																																																																													
第6回	多職種連携の事例2	大林																																																																																																																													
第7回	多職種連携の事例3	大林																																																																																																																													
第8回	多職種とは	大林																																																																																																																													
第9回	多職種連携の効果		皿井																																																																																																																												
第10回	多職種連携・協働に求められる基本的な能力		皿井																																																																																																																												
第11回	障害児・者支援施設における多職種連携		大林																																																																																																																												
第12回	障害児・者支援施設における多職種連携		大林																																																																																																																												
第13回	障害児・者支援施設における多職種連携		大林																																																																																																																												
第14回	認知症対応型共同生活介護における多職種連携		大林																																																																																																																												
第15回	認知症対応型共同生活介護における多職種連携		大林																																																																																																																												
第16回	通所介護における多職種連携		皿井																																																																																																																												
第17回	通所介護における多職種連携		皿井																																																																																																																												
第18回	障害者支援施設における多職種連携		大林																																																																																																																												
第19回	障害者支援施設における多職種連携		大林																																																																																																																												
第20回	障害者支援施設における多職種連携		皿井																																																																																																																												
第21回	障害者支援施設における多職種連携		皿井																																																																																																																												
第22回	多職種連携・協働のためにチームづくり		大林																																																																																																																												
第23回	地域包括支援センター見学		大林																																																																																																																												
第24回	地域包括支援センター見学		皿井																																																																																																																												
第25回	地域包括支援センター見学		皿井																																																																																																																												
第26回	課題解決に対する多職種の関わり1		皿井																																																																																																																												
第27回	課題解決に対する多職種の関わり2		皿井																																																																																																																												
第28回	課題解決に対する多職種の関わり3		皿井																																																																																																																												
第29回	課題解決に対する多職種の関わり4		皿井																																																																																																																												
第30回	まとめ	大林																																																																																																																													
ナンバリング	WSEGLM6001																																																																																																																														

開講年度・開講学期	2020年度 春学期			授業コード	28600		
科目	2860 コミュニケーション技術 1			授業種別	週間授業		
担当教員	葛谷 潔昭			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	<p>介護の基本となる人間同士のコミュニケーション能力を高齢者とのレクリエーションを通して習得します。</p> <p>講義の中で支援計画を作成し実践力を養います。また、介護実習 I でコミュニケーション支援計画を作成し実習とリンクします。</p> <p>介護福祉士は、介護の対象となる人にとっての尊厳や自立を考慮することが重要であるため、介護福祉士としてのコミュニケーションのあり方の評価について学びます。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性				◎			
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的や技法(話を聴く技法・質問の技法)を説明することができる。 2. 介護福祉士に求められるコミュニケーションの基本を説明することができる。 3. 介護福祉士は介護技術の提供を通して利用者とのコミュニケーションの際に身につけておかなければならない技術(感情表現を察する・納得と同意を得る・相談・助言・指導の技法・利用者の意欲を引き出す方法・利用者と家族を調整する方法・複数の利用者のいる場合の技法)を説明することができる。 4. 事例や実践を通して①～③について、自己を振り返ることができる。 						
テキスト(教科書)	<p>最新 介護福祉士養成講座 5『コミュニケーション技術』中央法規出版 ISBN: 978-4-8058-5765-6</p> <p>『介護福祉用語辞典』中央法規出版 ISBN: 978-4-8058-5094-7</p>						
参考書および参考文献	<p>『見て覚える! 介護福祉士国試ナビ 2021』中央法規出版(未刊、2020年7月発行予定)</p> <p>『介護専門職のための声かけハンドブック』諏訪茂樹著 中央法規出版</p> <p>『五感で磨くコミュニケーション』平本相武著 日経文庫</p>						
受講条件	なし						
事前・事後学習(内容・時間)	<p>予習・復習の内容(各回2時間相当)</p> <p>毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること。 2. 授業内で指示する内容について、事前に調べて授業に参加すること。 3. 第16回定期試験(小テスト等の復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと) 						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として毎回出席すること。 ・数回の小レポートと小テスト、毎回の受講姿勢を加味する ・期末試験 						
評価項目	割合	評価基準					
課題レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているのかを評価する。					
小テスト	30%	講義の内容の理解度を確認する。					
定期試験	50%	筆記試験にて理解度を確認する					
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 第1回. 介護におけるコミュニケーションの基本(自己覚知) 第2回. 人間関係の形成の基礎(自己覚知・他者理解) 第3回. 対人関係・コミュニケーションの意義・目的・役割 第4回. コミュニケーションの技法(1)対人距離(物的・心理的) 第5回. 高齢者・障害児・者の状況に応じたコミュニケーション支援と求められるレクリエーションとは 第6回. 介護レクリエーションとは 介護レクリエーション支援の具体例 第7回. コミュニケーションを促す環境について 第8回. コミュニケーションの技法(2)言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション 第9回. コミュニケーション技法(3)受容・共感 第10回. コミュニケーションの技法(4)傾聴 第11回. 道具を用いた言語的コミュニケーション(1)機器を利用して 第12回. 道具を用いた言語的コミュニケーション(2)記述を利用して 第13回. 介護場面における利用者とのコミュニケーション支援 第14回. 個性を引き出す支援とは、そのためのコミュニケーションとは 第15回. 総まとめ 介護福祉士、援助者にとってのコミュニケーションとその支援、その技術とは <p>※ 講義の内容は、進行状況により変更されることがあります</p>						
ナンバリング	WSAM6001						

開講年度・開講学期	2020 年度 春学期		授業コード	28610			
科目	2861 コミュニケーション技術 2		授業種別	週間授業			
担当教員	葛谷 潔昭		単位数	1			
その他担当者	洲淵 智子、浅井 康史、平松 靖一郎						
授業概要	本講座は、保育士養成課程を経て、さまざまな障害のある乳幼児から高齢者の発達や可能性を引き出すためのコミュニケーション支援に関する知識や技法を学びます。また、家族への支援やチームケアに必要なコミュニケーションの意義や技法を講義や学外演習を通じて学びます。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性				◎			
授業の到達目標	①さまざまな障害の特性に応じた基本的なコミュニケーション方法が説明できる。②さまざまな障害お特性に応じた基本的なコミュニケーション技術を実践できる。③実践における家族への支援の意義を説明することができる。④他職種との情報の共有の意義を説明できる。⑤具体的な介護アプローチの方法について説明できる。⑥記録・報告・相談・会議・発表等、介護チームマネジメントに必要なコミュニケーション能力を習得し、実践することができる。						
テキスト（教科書）	最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 2019年3月刊行 中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5765-6 2,420円(税込) 聴覚障害:「聴さんと学ぼう!」今すぐはじめる手話テキスト 900円+税 2014年 発行:一般社団法人全日本ろうあ連盟 ISBN 978-4-904639-10-8 C0037						
参考書および参考文献	聴覚障害:「聴覚・言語障害者とコミュニケーション」[単行本]中央法規出版 2,200円 [監修]一番ヶ瀬康子 [企画・編集]一般社団法人全国手話通訳問題研究会 ISBN4805849231、9784805849231 視覚障害:「はじめに」「点訳のしおり」日本点字図書館発行抜粋 必用に応じて講義の中で紹介をする。						
受講条件	○ なし						
事前・事後学習（内容・時間）	◆運動機能障害・家族支援・チームアプローチについては、 予習・復習の内容(2時間相当) ・講義前にテキストを指定箇所まで読んでおくこと。〔7回/8回〕 ・毎授業後で得た学びについて復習をすること。〔7回/8回〕 ・授業内で指示する内容について、事前に調べて授業に参加すること。〔2回/8回〕 ・第16回定期試験「小テストの復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと」。 ◆聴覚障害 事前学習 ・実技(手話):各回学習予定の手話単語を事前に目を通しておくこと。 ・講義:各回学習内容に関するテキストの該当ページを事前に参照しておくこと。 事後学習 ・実技:各回学習した内容を受講生同士で表現し合い、相手に伝わる表現ができていないかを反復練習すること。 ・講義:講義で配布された講義関連資料に目を通して復習をしておくこと。 ◆視覚障害:実技(点字)については事前に配布された資料を授業前には目を通しておくこと。〔2回/2回〕 ※各授業、指示された課題は期日までに提出すること。期限厳守。						
成績評価	運動機能障害等、家族の支援、チームアプローチ: 学外演習の参加度・グループワークへの取り組みと課題提出(30%) 小テスト(30%) 定期試験(40%) 聴覚障害:授業内に実施する実技試験(30%) 授業内に提示した課題に対するレポート(70%) 視覚障害:授業への積極性 点字の提出課題で評価。(減点法にて評価) 成績評価は3つの講義に分けて評価したものを総合して評価とします。						
評価項目	割合	評価基準					
講義: ①課題レポート(30%) ②小テスト(30%) ③定期試験(40%)	① 30% ② 30% ③ 40%	①課題に対する適切な内容・記述になっているか、評価する。 ②講義内容の理解度を確認する。 ③筆記試験にて理解度を確認する。(基礎問題80%・応用問題20%)					
聴覚障害 ①【授業内に実施する実技試験】 ②【授業内に提示した課題レポート】	① 30% ② 70%	①簡単な手話表現が理解できる。 ②障害特性に応じたコミュニケーション手段が理解できる。					
視覚障害: ①点字レポート課題 ②授業内の実技課題	① 70% ② 30%	①簡単な点字で文章表現ができる。 ②視覚障害の表現の仕方がわかり文章で表現できる。					
授業の実施方法と授業計画	※学習効果を高めるため、適宜、ビデオ教材を使用します。 ※講義の内容は、進行状況により変更されることがあります。 【第1回 担当:平松靖一郎(手話通訳士)】 第1回 ガイダンス/コミュニケーション支援とは 【第2回~第5回 担当:奥谷深昭】 第2回 ガイダンス 対象者の特性に応じたコミュニケーション 利用者の家族との関係づくり/コミュニケーション障害への対応の基本 第3回 様々なコミュニケーション障害のある人への支援/知的障害・発達障害・重症心身障害 第4回 利用者の状況に応じたコミュニケーションの実践/学外演習 第5回 利用者の状況に応じたコミュニケーションの実践/学外演習 【第6回~第9回 担当:浅井康史】 第6回 様々なコミュニケーション障害のある人への支援/失語症/構音障害/高次脳機能障害 第7回 様々なコミュニケーション障害のある人への支援/うつ病・統合失調症 第8回 利用者の状況に応じたコミュニケーションの実践/学外演習 第9回 利用者の状況に応じたコミュニケーションの実践/学外演習 【第10回~第13回 担当:平松靖一郎(手話通訳士)】 聴覚障害 ろう者について知り、手話の基礎的な力を身に付けることを目標としています。 第10回【実技】①挨拶してみよう ②手話がわからなかったとき ③数字や時間の表現を覚えよう 【講義】手話の基礎知識 ①身振り手振りの違い ②日本の手話の歴史 ③手話の地域性、個人性等日本の手話の特徴 ④物の形や動作の模倣 ⑤身振り表現での伝達 第11回【実技】①趣味のことを話そう ②行きたい場所の表現を覚えよう ③買い物とお金の表現を覚えよう 【講義】聴覚障害の基礎知識 ①聴覚障害について ②言葉の発達と復健 ③聴覚・言語障害者の関連福祉制度 第12回【実技】①病気やけがで困ったとき ②お天気と乗り物の手話を覚えよう 【講義】聴覚障害者の生活 ①家族とのコミュニケーション ②地域の人々とのコミュニケーション ③子育てで困ること ④職場で困ること ⑤病院で困ること ⑥情報保障について 第13回【実技】①聴覚障害者の生活を知ろう ②災害に関する手話を覚えよう 【講義】災害における聴覚障害者支援の在り方 ①個人の備え ②地域における備え ③施設における備え ④聴覚障害者支援の具体例 【第14回~第15回 担当:洲淵智子】 視覚障害 第14回 ①視覚障害者の生活の現状と課題について 視覚障害者と安心してできるコミュニケーション支援の方法 第15回 ②視覚障害者と点字について						
ナンバリング	WSA1JM6001						

開講年度・開講学期	2020年度 春学期			授業コード	28650		
科目	2865 生活支援技術 1			授業種別	週間授業		
担当教員	大林 博美			単位数	2		
その他担当者	村上 貴子						
授業概要	<p>本科目は、保育士養成課程を踏まえた生涯発達の視点から、介護福祉士として個人の尊厳に根ざしたその人らしい生活を理解した生活支援技術の考え方や、基本的な生活支援の知識・技術について学ぶ。</p> <p>また、人間にとって生活とはなにかを学び、生活する上で必要な家事援助の基礎的な知識と技術を幅広く習得し在宅介護の特徴や生活援助方法について学ぶ。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎			○	○		
授業の到達目標	<p>【基本的な生活支援知識と技術】</p> <p>①生活支援の基本的な考え方を説明することができる。</p> <p>②ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を説明することができる。</p> <p>③尊厳・自立の視点から生活支援技術を適切に実施できる</p> <p>④生活支援の意義を理解し、安全な安心な方法を理解し、事前に説明することができる</p> <p>⑤支援後に尊厳、自立、倫理面から自己の行った生活支援を振り返り、評価することができる</p> <p>【在宅介護における基本的知識と技術】</p> <p>①生活を支える生活経営への配慮が説明できる。</p> <p>②家事援助の意義および目的、方法が説明できる。</p> <p>③在宅でのチーム連携の重要性が説明できる。</p> <p>④一人暮らし、高齢者夫婦の防犯、防災の必要性、対策が説明できる</p>						
テキスト（教科書）	<p>【使用テキスト】</p> <p>最新 介護福祉士養成講座第6巻『生活支援技術Ⅰ』編集介護福祉士編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5766-3</p> <p>最新 介護福祉士養成講座第7巻『生活支援技術Ⅱ』編集介護福祉士編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5767-0</p>						
参考書および参考文献	ホームヘルプの要点 一橋出版 ISBN4-8348-0012-1						
受講条件	<p>【注意事項】</p> <p>①原則として毎回出席すること。遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。</p> <p>②【演習時の受講条件】 全ての実技演習において受講条件は、ユニフォームを着用すること。また、髪型：髪はまとめ、肩につかないようにする。実技の邪魔にならないように、前髪はピンで留めして受講すること。</p> <p>③途中で、到達目標や評価を自己評価でも行います。その段階で面接をする場合があります。</p>						
事前・事後学習（内容・時間）	<p>毎回、授業前に抗議テーマに該当する教科書のページを読んでおくこと（30分程度）</p> <p>毎回、授業後に授業で得た学びについて自主学習および、レポートを作成すること（60分程度）</p> <p>毎回、授業内で指示する内容について、事前に調べて授業に参加すること（60分程度）</p> <p>第31回実技ⅰ試験（毎回の実技等の復習を行い、実技試験範囲の復習を行うこと）（120分程度）</p>						
成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。 なお、劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。						
評価項目	割合	評価基準					
実技演習	10%	自己学習（テスト前の練習回数）も評価します。					
レポート	10%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する					
実技試験	20%	実技試験にて実技の確認と理解度を確認する。					
定期試験	60%	筆記試験にて理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 生活支援の3つの基本的視点と基本技術</p> <p>第2回 視点①【自立に向けた安全・安楽】</p> <p>第3回～第4回 視点②【自立に向けた自立支援】残存機能の活用 意欲の促進</p> <p>第5回～第6回 視点③【自立に向けた個人の尊厳】： 基本的技術①【自立に向けた室内環境】</p> <p>第7回～第9回 基本的技術②【自立に向けた利用者の健康状況の把握】</p> <p>第10回～第12回 基本的技術③【自立を支援する介護者の健康管理】</p> <p>第13回～第14回 基本的技術④【自立に向けた睡眠の介護】</p> <p>第15回～第16回 基本的技術⑤【自立に向けた食事の介助】</p> <p>第17回～第19回 基本的技術⑥【自立に向けた排泄の介助】</p> <p>第20回～第22回 基本的技術⑦【自立に向けた保清の介助】</p> <p>第23回～第24回 基本的技術⑧【自立に向けた保清の介助】</p> <p>第25回～第26回 基本的技術⑨【自立に向けた衣服の着脱】</p> <p>第27回 基本的技術⑩【自立に向けた整容の介助】</p> <p>第28回～第29回 基本的技術⑪【自立に向けた移動・移乗】</p> <p>第30回 まとめ</p> <p>※教育効果を図るため等、学生の理解度により、順序を変更する場合があります。</p>						
ナンバリング	WSBM6002						

開講年度・開講学期	2020 年度 春学期		授業コード	28660			
科目	2866 生活支援技術 2		授業種別	週間授業			
担当教員	大林 博美		単位数	2			
その他担当者							
授業概要	本科目は、保育士養成課程を踏まえ、高齢者や障害児・者の生活支援についての基本的な知恵と技術を学びます。生活支援の目的と意義を理解し、根拠ある支援ができるようにします。生活支援技術 1 で学んだ知識と技術を参考にした生活支援の基本とアセスメントをもとに、実際に高齢者や障害のある人への生活支援技術を指導のもとでできるように学外演習を通して学びます。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎			○			
授業の到達目標	①障害児・者の生活支援の目的と意義が説明できる ②生活支援に必要とされる障害の観察・評価・理解の視点が説明できる ③各障害のある人の生活支援の基本が説明できる ④障害のある人のアセスメントと目標が説明できる ⑤障害のある人とのコミュニケーションができる ⑥障害のある人への生活支援技術が指導のもとでできる。						
テキスト（教科書）	【使用テキスト】 最新 介護福祉士養成講座第 6 巻『生活支援技術Ⅰ』編集介護福祉士編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5766-3 最新 介護福祉士養成講座第 7 巻『生活支援技術Ⅱ』編集介護福祉士編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5767-0						
参考書および参考文献	【参考テキスト】 1) 新 介護福祉士養成講座 第 8 巻「生活支援技術Ⅲ」編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 ISBN:978-4-8058-3942-3 ケアの基本がわかる重症心身障害児の看護 出生から家族支援から緩和ケアまで ヘルス出版 ISBN978-4-89269-881-1 2) 重症児教育 視点、実践、福祉、医療との連携 クリエイツかもがわ ISBN4-902224-23-3 3) 幼児教育・保育科で使用した障害児保育のテキスト						
受講条件	学外演習では、名札を準備し、実習にふさわしい髪形、服装で臨むこと。						
事前・事後学習（内容・時間）	毎回、授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（30 分程度） 毎回、授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（60 分程度） 毎回、授業内で指示するしないについて、事前に調べて授業に参加すること（60 分程度） 第 31 回定期試験（小テスト等の復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと）（120 分程度）						
成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。						
評価項目	割合		評価基準				
学外演習・課題レポート	20%		課題に対して適切な内容になっているかを確認します				
演習課題試験	10%		課題事例に対する実技試験にて、技術の理解度を確認します。				
定期試験	50%		筆記試験にて、理解度を確認します。				
グループワークの貢献度・参加度	20%		グループワークにおいて参加状況、資料作成過程資料内容				
授業の実施方法と授業計画	第 1 回 オリエンテーション 生活支援の 3 つの基本的視点と基本技術 第 2 回 基本的な 3 つ視点のチェックリスト作成 【自立に向けた安全・安楽】【自立に向けた自立支援】【自立に向けた個人の尊厳】 第 3 回～第 5 回 実践 1 第 6 回～第 7 回 振り返り 【自立に向けた室内環境】【自立を支援する介護者の健康管理】のチェックリスト作成 第 8 回～第 10 回 実践 2 第 11 回～第 12 回 振り返り 【自立に向けた利用者の健康状況の把握】 【自立に向けた睡眠の介護】のチェックリスト作成 第 13 回～第 14 回 実践 3 第 15 回～第 17 回 振り返り 【自立に向けた食事の介助】 【自立に向けた保清の介助】のチェックリスト作成 第 18 回～第 19 回 実践 4 第 20 回～第 22 回 振り返り 【自立に向けた排泄の介助】 【自立に向けた移動・移乗】のチェックリスト作成 第 23 回～第 25 回 実践 5 第 26 回～第 28 回 振り返り 【自立に向けた衣服の着脱】 【自立に向けた整容の介助】 第 29 回～第 30 回 まとめ ※受講学生の習熟度より授業計画を変更することもあります。						
ナンバリング	WSBM6003						

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期				授業コード	28670		
科目	2867 生活支援技術3				授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	大林 博美				単位数	1		
その他担当者	村上 貴子							
授業概要	<p>この科目は、保育士養成課程を踏まえて、子どもから高齢者に対して豊かな関わりをするために、介護者自身の教養を高め、心身ともに安定する方法について学ぶ。</p> <p>長きにわたり人々の暮らしに根付いてきた行事と日本の生活との関係について理解する。具体的には、人々が先人の思いや知恵、季節との移ろいに節目となる年中行事の形だけでなく、行事本来の意味、季節の草花、味、行事等について調べ、自分の住んでいる地域の行事や自分の思い出も語ってみる。</p> <p>どのように季節を取り入れているか等課題等を通して、年中行事と人々の暮らしの関係について理解を深める。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5			
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎				
授業の到達目標	<p>1. 日本の豊かな年中行事に説明することができる。</p> <p>2. 年中行事と人々の暮らしの関係や影響について説明することができる。</p>							
テキスト（教科書）	おうちで楽しむにほんの行事 / 技術評論社 / ISBN 4-7741-2952-6							
参考書および参考文献								
受講条件	履修条件はない。							
事前・事後学習（内容・時間）	<p>毎回、授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（30分程度）</p> <p>毎回、授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（60分程度）</p> <p>毎回、授業内で指示するしないようについて、事前に調べて授業に参加すること（60分程度）</p> <p>レポート等の課題は、締切日までに必ず提出すること。</p>							
成績評価	毎回出席を原則とし、理由なき欠席、遅刻など状況によって減点対象とする場合がある。							
評価項目	割合		評価基準					
レポート	30%		あらゆる介護場面に共通する心身の活性化につながる支援の方法と理解度の確認					
課題の提出	30%		総合課題の完成度					
グループ演習貢献状況	40%		グループワークを通して、発言やグループ貢献度などを総合的に見て評価する。					
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 【村上】</p> <p>第2回 卯月 草花遊びいろいろ 【大林】</p> <p>第3回 卯月 お花見とおむすび 【村上】</p> <p>第4回 卯月 田舎で見つける春と鳥 【大林】</p> <p>第5回 皐月 柏餅 【村上】</p> <p>第6回 皐月 菖蒲湯づくり 【大林】</p> <p>第7回 皐月 菖蒲湯づくりと足湯 【村上】</p> <p>第8回 皐月 新茶 【大林】</p> <p>第9回 お月見とお団子 【村上】</p> <p>第10回 秋の夜長と影遊び 【大林】</p> <p>第11回 蒸籠で蒸しご飯 【村上】</p> <p>第12回 蒸籠で蒸しご飯 【大林】</p> <p>第13回 みんなでお鍋 【村上】</p> <p>第14回 冬を乗り切るかぼちゃとゆず湯 【大林】</p> <p>第15回 お正月の料理 【村上】</p> <p>【※受講生の状況により順番が変更する場合もある。</p>							
ナンバリング	WSBDM6001							

開講年度・開講学期	2020年度 春学期	授業コード	28680
科目	2868 生活支援技術 4	授業種別	週間授業
担当教員	八木 幸一	単位数	1
その他担当者			
授業概要	本講義は、保育士養成課程を踏まえて、人間にとって、「移動」できることの意義や介護福祉士に必要な「移動」を安全に行うための理論を理解し、実践するための根拠ある技術を習得する。また、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、生活が継続できるよう、介護予防、リハビリテーションの意義について学び、他職種である理学療法士と介護福祉士との連携の必要性、チームアプローチについて学習する。介護ロボットを含め移動に関する福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識を習得する。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
授業の到達目標	①介護に必要な運動機能の基礎知識を理解し、説明できる。 ②運動機能障害を有する対象者の介助法が実践できる。 ③基礎的な移動動作の介助法が実践できる。 ④基本移動動作の基本的な介助方法が実践できる。 ⑤介護予防の意義を説明できる。 ⑥リハビリテーションの意義を生活の再構築の視点から説明できる。 ⑦移動に関する福祉用具を選ぶポイントを説明できる。		
テキスト（教科書）	新・介護福祉士養成講座 第3巻『介護の基本Ⅰ』 第2版 新・介護福祉士養成講座 第7巻『生活支援技術Ⅱ』 第2版		
参考書および参考文献			
受講条件			
事前・事後学習（内容・時間）	毎回、授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（30分程度） 毎回、授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（60分程度） 毎回、授業内で指示するしないについて、事前に調べて授業に参加すること（60分程度） 第16回定期試験（小テスト等の復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと）（120分程度）		
成績評価	試験、レポート等総合的に評価します。		
評価項目	割合	評価基準	
筆記試験	50%	筆記試験で理解度を確認します	
実技試験	50%	実技試験で技術の習得度を確認します	
授業の実施方法と授業計画	第1回. ガイダンス 自立に向けた移動の介護 第2回. ICFの視点で見た「移動」の意義と目的の理解 第3回. 移動に必要な運動学的知識とアセスメント 第4回. 起き上がり動作から車椅子移乗 第5回. 車椅子を利用した移乗 第6回. 歩行を理解するための基礎知識 第7回. 移動に関する福祉用具 第8回. 歩行を支える介護 第9回. 骨関節疾患を有する人の移動介護 第10回. 中枢神経疾患を有する人の移動介護 第11回. 生活支援と福祉用具 第12回. 生活支援とリハビリテーション〔テキスト：介護の基本Ⅰ〕 第13回. 生活支援技術と介護予防〔テキスト：介護の基本Ⅰ〕 第14回. 介護予防のための運動プログラム〔学外演習〕 第15回. 他の職種の役割と協働〔学外演習〕 ※演習を行う場合は、ユニホームやジャージに着替えて、動きやすい服装に着替えてください ※但し受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。		
ナンバリング	WSBM6004		

開講年度・開講学期	2020 年度 春学期～秋学期				授業コード	28690			
科目	2869 生活支援技術 5				授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）			
担当教員	武田 康代				単位数	3			
その他担当者	柳原 伸行、井上 尚子								
授業概要	高齢者の人口比率が高まる中で、介護福祉士の任務を認識し、健康でQOLの向上した高齢者や障害者を目指すため、衣食住環境における理論と技術を基礎から学び、自立に向けた介助につなげる。								
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5				
ディプロマポリシーとの関連性	◎								
授業の到達目標	衣食住環境において高齢者や障害者の自立に向けた介助において、介護福祉士として取得しておく必要のある技術を基礎から学び、自ら実践的に活用できる能力や利用者の個別に対応できるための能力を修得することができる。								
テキスト（教科書）	・ 共通使用：「新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 ISBN:978-4-8058-3420-6 ・ 各テーマにより、必要に応じて適宜プリントを配布する。								
参考書および参考文献	授業時間内に担当者から指示をする。								
受講条件	なし								
事前・事後学習（内容・時間）	衣生活分野（1 時間相当） ①事前にテキストの内容を熟読しておく ②高齢者や障がいのある人の衣類の特徴について考える ③課題のある場合は、提出期限までに仕上げる 住環境分野（2 時間相当） ①事前にテキストの内容を熟読しておく ②高齢者や障がい者にとってのバリアフリーとは何か考える 食生活分野（3 時間相当） ①保育士免許取得必須科目の「子どもの食と栄養」で学んだ栄養素に関する内容を再度確認しておく ②事前にテキストの内容を熟読しておく ③調理実習で学んだ内容をノートに整理しておく								
成績評価	・ 生活 3 分野の衣食住に分けて評価したものを総合して評価とします。 毎回出席を原則とし、欠席や遅刻、受講態度の状況によっては減点対象とする場合がある。								
評価項目	割合		評価基準						
衣服生活分野 レポート 実習提出物	30%	70%	課題の理解を評価する 課題作品の完成度を評価する						
住環境分野 小テスト 筆記試験	30%	70%	単元ごとの理解度を評価する 理論の理解度を評価する						
食生活分野 実技試験 提出物 筆記試験	20%	20%	60%	介護食技術の習得の確認をする 介護食実習ノートのまとめ方を確認をする 理論の理解度を評価する					
授業の実施方法と授業計画	被服生活【井上】 第 1 回 自立に向けた家事の介護 被服管理講義（洗濯、界面活性剤、保管等） 第 2 回 被服管理実習（しみ抜き、漂白、のりつけ、仕上げ等） 第 3 回 被服構成講義【和服・洋服の構造、被服構成実習（身体計測）、サイズ表示】 第 4 回 被服構成実習（1/10 の雛型の作成） 第 5 回 和服、洋服の収納の方法、たたみ方、ユニバーサルファッションとは 第 6 回 高齢者・障害者のための衣服のデザイン、構成と着脱の工夫、被服材料講義 第 7 回 裁縫技術の習得 手縫いの方法 第 8 回 ミシン、ロックミシンの使い方 住環境【柳原】 第 9 回 自立に向けた居住環境の整備・住環境についての知識 第 10 回 居住環境整備の意義と目的 第 11 回 生活空間と介護の拡大 学外演習 第 12 回 居場所とアイデンティティ 学外演習 第 13 回 学外演習の振り返り 意見交換 第 14 回 I C F の視点に基づく利用者のアセスメント 学外演習意見交換 第 15 回 住環境のアセスメント 第 16 回 安心で快適な生活の場づくりとは 第 17 回 安心で快適な生活の場づくりの工夫 住宅改修の事例 第 18 回 住宅のバリアフリー化の事例・ユニバーサルデザインの事例 第 19 回 人まちづくりについて 学外演習【人まちづくりに参加】 第 20 回 他職種協働の役割 学外演習【人まちづくりに参加】 第 21 回 なじみの生活空間づくり 学外演習【人まちづくりに参加】 第 22 回 他の職員の役割と共同・まとめ（グループワーク） 第 23 回 施設などの業住の場合の工夫・留意点 食生活【武田】 第 24 回 ガイダンス・食文化・食生活の変化・高齢者の心身と身体機能の変化と栄養 第 25 回 講義：栄養の基礎理解 食生活アセスメント方法 食事調査への評価演習 第 26 回 講義：高齢者・障害者の食事と調理 第 27 回 講義：フレイル・サルコペニア予防のための食事と運動 第 28 回 講義：調理の支援とは何か・調理の基本・献立の立て方 第 29 回 講義：調理の基本・食品の調理性・食品の購入と選択・食品衛生（感染予防含む） 第 30 回 調理実習：一般常食（主食 主菜 副菜 汁物）の献立 第 31 回 試食と評価 第 32 回 調理実習：災害時の介護食応用へのバッククッキング 第 33 回 試食と評価 第 34 回 調理実習：嚥下障害食 飲み込みやすさの比較 減塩・脂質異常症への配慮 第 35 回 試食と評価 第 36 回 調理実習：献立の作成 バランスの良い朝ごはん作り 骨粗鬆症予防 第 37 回 試食と評価 第 38 回 調理実習：咀嚼障害・嚥下障害のある場合 嚥下しやすい献立 第 39 回 試食と評価 第 40 回 調理実習：便秘・下痢に関する食事 第 41 回 試食と評価 第 42 回 調理実習：実技試験準備 第 43 回 実技試験：評価と試食 調理環境整備 第 44 回 講義：自立に向けた食事の介護 家事介助 第 45 回 講義：高齢者・障害者の栄養と食生活 調理上の様々な工夫や活用 ただし、受講生の習熟度や学外実習日程により授業計画を変更することもある								
ナンバリング	WSBM6005								

開講年度・開講学期	2020年度 秋学期		授業コード	28700			
科目	2870 生活支援技術 6		授業種別	週間授業			
担当教員	大林 博美		単位数	1			
その他担当者							
授業概要	<p>この科目は、保育士養成課程を踏まえて、子どもや高齢者の終末期のとらえ方、看取りの尊厳の保持の意味について学ぶ。また、尊厳ある「命」と「生活」を大事にして、その人らしい最期を送ることの大切さを理解し、看取りケアの基本的な知識、技術、態度について学ぶ。よりよく育てる「保育」と、よりよく生きていくことを支援する「介護」との関係を考え、「自分の死生観」を明らかにする。</p> <p>また、終末期における介護の意義と介護の目的を理解し、終末期の心身の状況や終末期における家族とのつながり、家族への配慮、他職種との連携・協働、臨終時の介護技術、亡くなった後の介護職自身のケアのあり方、グリーフケアについて学ぶ。</p> <p>緊急時における対応についても学ぶ。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎				○		
授業の到達目標	<p>①子どもや高齢者の終末期のとらえ方を学び、看取りの尊厳の保持の意味が説明できる</p> <p>②尊厳ある命と生活を大事にして、その人らしい最期を送ることの大切さを理解することができる</p> <p>③看取りケアの基本的な知識、技術、態度について修得できる</p> <p>④よりよく育てる保育と、よりよく生きていくことを支援する介護との関係を考え、自分の死生観を説明できる</p> <p>⑤終末期における介護の意義と介護の目的を理解できる</p> <p>⑥終末期の心身の状況を説明できる</p> <p>⑦終末期における家族とのつながり、家族への配慮、他職種との連携・協働、臨終時の介護技術、亡くなった後の介護職自身のケアのあり方、グリーフケアについて説明できる</p>						
テキスト（教科書）	<p>最新 介護福祉士養成講座第7巻『生活支援技術Ⅱ』編集介護福祉士編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5767-0</p> <p>高齢者介護施設の看取りケアガイドブック〈中央法規〉 ISBN978-4-8058-3079-6</p>						
参考書および参考文献	<p>1) ケアの基本がわかる 重症心身障害児の看護 出生前から家族支援からの緩和ケアまでヘルス出版 ISBN978-4-5033</p> <p>2) 在宅における緊急看護 一橋出版 ISBN4-8348-0013</p> <p>3) 高齢者介護施設の看取りケアガイドブック〈中央法規〉 ISBN978-4-8058-3079-6</p>						
受講条件	履修条件はありません						
事前・事後学習（内容・時間）	<p>毎回、授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（30分程度）</p> <p>毎回、授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（60分程度）</p> <p>毎回、授業内で指示するしないについて、事前に調べて授業に参加すること（60分程度）</p> <p>毎回、授業前に指定テキストの指定範囲を読んで、感想を提出する〈30分程度〉</p> <p>第16回定期試験（小テスト等の復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと）（120分程度）</p>						
成績評価	<p>毎回出席を原則とします。</p> <p>なお遅刻、早退劣悪な授業態度は減点の対象となる場合があります。</p>						
評価項目	割合	評価基準					
課題レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているか評価する。					
小テスト	30%	講義内容の理解度を確認をする					
定期試験	50%	筆記試験にて理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 終末期における介護の意義と目的：死の概念・看取りケアの考え方</p> <p>第2回 子ども・高齢者の看取り：医療保育士・介護福祉士と看取りケア</p> <p>第3回 ターミナルケアの出現：豊かな命の看取り 看取り期における知識と技術</p> <p>第4回 看取りケアの基本：身体的苦痛に対するケア技術</p> <p>第5回 精神的苦痛の緩和ケア技術：看取り期のコミュニケーション技術</p> <p>第6回 社会的苦痛の緩和の知識：家族ケアの知識と技術 看取りケアステージ</p> <p>第7回 終末期におけるアセスメント1：心身の安定期 心身の不安定期</p> <p>第8回 終末期におけるアセスメント2：障害の進行期 死期を予見したとき</p> <p>第9回 終末期における介護：危篤時の看護・介護介入・死後のケア 危篤時のケア</p> <p>第10回 臨終時の介護：身体的支援</p> <p>第11回 死後の儀式と方法 死後の旅立ちと枕飾り・葬式に関する助言 【講和】</p> <p>第12回 【学外演習】現場職員の話・緊急時の連絡体制退所の手続き 退所後のカンファレンスの重要性・家族への支援とかかわり 【学外演習】看取りケアを体験した職員の話を受けてディスカッション</p> <p>第13回 【学外演習】看護師・介護福祉士の連携と役割</p> <p>第14回 グリーフケアの意義・方法と留意点 【講和】</p> <p>※但し受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>						
ナンバリング	WSBM6006						

開講年度・開講学期	2020年度 春学期		授業コード	28750			
科目	2875 介護過程 1		授業種別	週間授業			
担当教員	長谷川 彰		単位数	2			
その他担当者							
授業概要	<p>人の生活の中で自主、自立した生活から支援が必要な状態になった時、「誰が」「何を」「どのように」「どこまで」支えられるかを経験や勤でなく「プロセス」重視による体系化した「介護過程」を学ぶことで、その人の望む生活を育てられることを学ぶ。</p> <p>本科目は、講義だけでなくアクティブラーニングを使って展開していく。具体的には介護過程の理論体系（プロセス）、さまざまな事例に「何が必要なことなのか」問題意識を持ち、グループワークの中で課題の説明ができる文章表現、説明能力が得られる。</p> <p>プロセスを発展させる上で他職種との連携、協働することの意味、さまざまな専門職の解決姿勢がケア計画と個別介護計画につながることを知らせ、何が介護福祉士の専門性なのかを学ぶ。</p> <p>その上でどのようなチームアプローチがあるか、チームアプローチの実際を学び、解決につながる判断力を演習する。きわめて実践的な科目である。</p> <p>保育士養成課程で実習経験を積んでいることを踏まえ、さまざまな記録方法からアセスメントできる能力の定着を図る。</p> <p>また講義前半から国家試験の範囲と傾向、過去問の演習も行う。”</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	○		◎				
授業の到達目標	<p>① 介護過程の意義、目的を学習し、一人ひとりの生活を支えるプロセスとして介護過程の基本を理解することができる。</p> <p>② 介護の主体が生活者であることを ICF の理解を通して学び、生活の質（QOL）を保持できるさまざまなアプローチを実践できる。</p> <p>③ チームアプローチを通して、チーム内の問題意識を具体的に説明できる。</p> <p>④ ケースワークから様々な意見を整理し統合するグループダイナミクスが展開できる</p> <p>⑤ 実習の中で介護プロセスを展開し、自らの記録方法を示しながら、課題解決のプロセスを専門用語を用いた文章表現、説明によって完結できる。”</p>						
テキスト（教科書）	<p>■新・介護福祉士養成講座 第9巻「介護過程」第3版 編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 ■七訂介護福祉用語辞典 中央法規出版編集部 2015年 中央法規出版</p>						
参考書および参考文献	<p>参考文献 随時活用 参考資料 介護実習・介護総合演習で使用する介護過程展開用プリント</p>						
受講条件	履修条件はありません						
事前・事後学習（内容・時間）	<p>シラバスを参考にし、テキストや資料に予め目を通し学習しておくこと 復習をしておくこと 毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと。</p> <p>1. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること。</p> <p>2. 授業内で指示する内容について、事前に調べて授業に参加すること。</p> <p>3. 第16回 定期試験、『授業内の小テストの復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと』</p>						
成績評価	遅刻、早退、欠席および劣悪な授業態度は減点の対象となります。						
評価項目	割合		評価基準				
筆記試験	60%		筆記試験にて理解度を確認する				
演習	20%		グループワーク・カンファレンスへの参加状況・説明能力、グループダイナミクスの成果				
課題レポート	20%		講義の中で行う演習課題をレポートにまとめるもので、その出来具合や提出状況等により評価する。				
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション 介護の目的と介護過程</p> <p>第2回 介護過程の意義と目的</p> <p>第3回 介護過程展開の基本視点</p> <p>第4回 介護過程の全体像</p> <p>第5回 介護過程の展開 アセスメントとは ICFの視点の活用</p> <p>第6回 介護過程の展開 アセスメント 情報収集</p> <p>第7回 介護過程の展開 アセスメント 情報の関連づけ 統合化</p> <p>第8回 介護過程の展開 アセスメント 課題の明確化</p> <p>第9回 介護過程の展開 計画の立案 長期目標 短期目標</p> <p>第10回 介護過程の展開 計画の立案 介護内容と方法</p> <p>第11回 介護過程の展開 介護実践の留意点</p> <p>第12回 介護過程の展開 評価と修正 (評価の3つの視点、ICFの視点、介護過程の視点、倫理の視点)</p> <p>第13回 事例学習による介護過程の展開 (高齢者)</p> <p>第14回 事例学習による介護過程の展開 (障害者)</p> <p>第15回 事例学習のまとめと課題 補足 Q&A 学力評価試験+国家試験対策 但し受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある</p>						
ナンバリング	WSHM6001						

開講年度・開講学期	2020年度 秋学期		授業コード	28760				
科目	2876 介護過程 2		授業種別	週間授業				
担当教員	大林 博美		単位数	2				
その他担当者	村上 貴子							
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 事例演習を通じ、介護過程展開の各段階を理解し、利用者の状態・状況に応じた個別援助計画の表現方法を学習する。 介護実習を踏まえ個別援助計画の評価・修正を行い、重要性を知り、継続的な介護のあり方を学ぶ。 							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5			
ディプロマポリシーとの関連性	○		◎					
授業の到達目標	<p>①事例を通して介護過程の展開をすることができる全てのケアに方法や手順日は意味と理由があることが理解でき、説明することができる。②実習での介護過程の展開において、事実とアセスメントの意義を説明できる。④介護過程の展開における評価の重要性を理解して、その評価が妥当なものであったか、職業倫理に基づいて評価することができる。⑤科学的な思考の下で介護の専門職として介護過程の意義が説明できる。</p>							
テキスト（教科書）	<p>【使用テキスト】 最新 介護福祉士養成講座第9巻『介護過程』編集介護福祉士編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5769-4</p>							
参考書および参考文献								
受講条件	必修科目							
事前・事後学習（内容・時間）	<p>毎回、授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（30分程度） 毎回、授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（60分程度） 毎回、授業内で指示するしないようについて、事前に調べて授業に参加すること（60分程度） 第16回定期試験（小テスト等の復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと）（120分程度）</p>							
成績評価	以下のとおりである。							
評価項目	割合		評価基準					
グループ演習貢献状況	20%		グループワークを通して、適切に介護過程の実践を振り返ることができるか確認する。					
レポート提出	40%		課題に対して適切な内容になっているかを確認します。					
定期試験	40%		筆記試験を通して、理解度を確認します。					
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回～第15回まで【村上】 第1回 ガイダンス 介護過程の実践的展開 第2回～第5回 介護実習Ⅱ受持ち利用者の紹介 情報収集 第6回～第9回 介護実習Ⅱ受持ち利用者の情報分析 安全・快適・自立の視点から 第10回～第13回 介護実習Ⅱ受持ち利用者の介護計画 第14回～第15回 介護実習Ⅱ受持ち利用者の評価</p> <p>第16回～第30回まで【大林】 第16回～第18回 介護計画の振り返り 第19回～第22回 何をテーマにするか 川柳にする 文献検索指導 パワーポイント作成指導 文献検索 パワーポイント作成 文献検索 パワーポイント作成 第23回～第26回 パワーポイント作成 提出 第27回～第30回 パワーポイント作成 修正</p>							
ナンバリング	WSHJM6001							

開講年度・開講学期	2020年度 秋学期			授業コード	28770		
科目	2877 介護過程 3			授業種別	週間授業		
担当教員	大林 博美			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	近年生活上に困難や障害を持つ人々に対する支援は、様々な領域で地域社会を基盤に行われるようになってきている。この授業では、生活やそれに対する支援についての基本的な考え方を学び、具体的な支援の領域や方法について理解した上で、それら多様な知識を実践活動に結び付けることができるようになることを目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性		○	○				
授業の到達目標	①地域で生活する上で障害児の家族や障害者や高齢者どのような困難があるのかを説明できる。 ②実際に生活に困っている人々に、どのような援助の仕方が可能か、考える力を身に付ける。 ③多様な生活支援の方法について考え、困っている人々に提供できる力を身に付ける。						
テキスト（教科書）	最新 介護福祉士養成講座第9巻『介護過程』編集介護福祉士編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5769-4 最新 介護福祉士養成講座第4巻『介護の基本Ⅱ』編集介護福祉士編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5764-9						
参考書および参考文献	必要時、紹介します。						
受講条件	必修科目						
事前・事後学習（内容・時間）	毎回、授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（30分程度） 毎回、授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（60分程度） 毎回、授業内で指示しないようについて、事前に調べて授業に参加すること（60分程度） 第16回定期試験（小テスト等の復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと）（120分程度）						
成績評価	以下の通りです。						
評価項目	割合		評価基準				
課題レポート	80%		課題に対して適切な内容になっているか確認します				
グループワーク	20%		グループワークを通して、理解度を確認します。				
授業の実施方法と授業計画	第1回 授業の進め方についてのガイダンス 第2回 私たちの生活と地域はどのようにかかっているか。“生活”“地域”とは何か 第3回 以降は、以下の流れで学習する 【現状と課題を知る→原因を考える→具体的な対策を知る→参加→継続的に支援していくための仕組みを知る】【第3回】～【第6回】 生活を取り巻く子どもの課題 高齢者を取り巻く地域生活障害児・者、高齢者の家族における地域生活上の困難や課題とは文献研究 第4回 障害児・者、高齢者の家族における地域生活上の困難や課題 とは 文献研究 第5回 障害児・者、高齢者の家族における地域生活上の困難や課題 とは 資料作成 第6回 発表 第7回 “生活の困難の原因”について 第8回 “尊厳”“人権”という領域で生活支援について 第9回 “自助・互助・共助・公助”という領域で生活支援について 第10回 “日本に住む外国人”への支援について 第11回 “まちづくり”という領域で生活支援について 第12回 人としての地域における生活支援全般について 第13回 “医療・福祉・教育の専門分野”という視点で生活支援について 第14回 グループワーク 地域における生活の困難への支援のあり方 第15回 まとめ発表						
ナンバリング	WSGHLM6001						

開講年度・開講学期	2020 年度 秋学期		授業コード	28780			
科目	2878 介護過程 4		授業種別	週間授業			
担当教員	大林 博美		単位数	1			
その他担当者							
授業概要	介護実習Ⅱで実践した介護学んだことをテーマにして自己の介護過程をまとめ発表する。 その過程を経て、介護観を明らかにする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	○		◎		○		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の興味あるテーマに沿った適切な研究論文を検索できる。 2. 理解した内容をわかりやすく伝える（発表できる）。 3. 適切でわかりやすいパワーポイントを作成できる。 4. 効果的な発表ができる。 5. 質問に理論的に答えることができる。 6. 自分の意見をまとめ、他の人の意見を適切に理解することができグループで議論することができる。 7. 一連の活動を報告書、もしくはプレゼンテーションの形で発表することができる。 8. 研究に対する応用・発展的な思考を身につけることができる。 9. 介護福祉士観を明確にできる。 						
テキスト（教科書）	最新 介護福祉士養成講座第9巻『介護過程』編集介護福祉士編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5769-4						
参考書および参考文献	「プレゼンテーション演習1」福永弘之監修 樹村房						
受講条件	実習Ⅱを修了していること。専攻科介護福祉専攻は、1年間で介護福祉士という専門職に求められる様々な能力を身につけます。1年間で学ぶ、専門的知識・技術を用いて介護過程に沿った実践を行い、介護福祉士として倫理的に評価をすることで、自己を振り返り、新たな課題を発見することになります。 したがって、ケーススタディは1年間の集大成になると言えるものです。 常に問題意識を持って、探究する楽しさを感じ意欲的に取り組んでください。						
事前・事後学習（内容・時間）	毎回、自分が取り組むテーマに関連する先行研究及び参考文献を探す（60分程度） 毎回、指示された内容について、改善して授業に参加すること（60分程度）						
成績評価	以下の通りです						
評価項目	割合		評価基準				
課題提出	80%		課題に対して適切な内容になっているかを確認します。				
プレゼンテーション	20%		プレゼンテーションの、適切に発表できるか確認をする				
授業の実施方法と授業計画	<p>【第1回】介護過程の展開・・・ケーススタディの目的</p> <p>【第2回】介護過程の実際・・・事例研究の進め方について</p> <p>【第3回】介護過程の実際・・・過去のケーススタディから自分の研究テーマを探る</p> <p>【第4回】介護過程の実際・・・文献検索・・・先行研究から自分の研究テーマを探る</p> <p>【第5回】介護過程の実際・・・介護実習における研究テーマの決定（仮）</p> <p>【第6回】介護過程の実際・・・研究テーマの決定 文献検索</p> <p>【第7回】介護過程の実際・・・介護実習における介護過程の整理 評価の見直し</p> <p>【第8回】介護過程の実際・・・パワーポイントの作成</p> <p>【第9回】介護過程の実際・・・パワーポイントの作成</p> <p>【第10回】介護過程の実際・・・パワーポイントの作成提出</p> <p>【第11回】ケーススタディ 予行演習1</p> <p>【第12回】ケーススタディ 予行演習1</p> <p>【第13回】ケーススタディ 本番予行演習3</p> <p>【第14回】ケーススタディ 本番予行演習4 パワーポイント完成</p> <p>【第15回】ケーススタディ 発表会に向けて パワーポイント完成提出</p>						
ナンバリング	WSHJM6002						

開講年度・開講学期	2020年度 春学期			授業コード	28800		
科目	2880 介護総合演習 1			授業種別	週間授業		
担当教員	村上 貴子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	<p>「介護総合演習」では効果的に介護実習を行うために、実習前、実習中、実習後に行うものである。具体的には、</p> <p>①実習前には、実習の意義、目的について学び、介護実習に向けての心構えをする。また、実習の目標に対する予備知識や自己目標をたて、具体的に実習で何を学ぶのかを理解する。</p> <p>②実習中には、実際の記録の書き方の指導を受け、実習で行っていることの報告をする。</p> <p>③実習後には、振り返りを行い、介護実習Ⅱに向けた自己の課題を明確にする。</p> <p>方法としては、グループワーク、ディスカッション、個別指導を通して、自己覚知する。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	○				○		
授業の到達目標	<p>①実習施設の概要と利用者の生活ニーズを理解し、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確にすることができる。</p> <p>②さまざまな利用者の生活を理解し、個別ケアとチームアプローチの中で、介護福祉士の役割について説明できる。</p> <p>③種々の実習記録や及び介護過程のアセスメント・計画・実践・評価を通し、利用者のニーズに応じたケアの実践能力を養い、介護福祉士に求められる知識・技術を包括的に説明できる。</p> <p>④実習記録の記述、評価やレポート作成を通して、客観的、論理的に記述することができる。</p> <p>⑤カンファレンスやグループディスカッションを通して、建設的に発言することができる。</p>						
テキスト（教科書）	<p>【テキスト】</p> <p>最新 介護福祉士養成講座第10巻『介護総合演習・介護実習』編集介護福祉士編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5770-0</p>						
参考書および参考文献	1. 新版 訪問介護マニュアル 愛知県ホームヘルパー連絡協議会						
受講条件	<p>この授業は、介護福祉士養成施設で行う実習にむけて必要な心構えや重要な手続きなどについての指導を行う。</p> <p>そのため、実習をおこなうにあたり、この講義を受け、必要事項が遂行されなければ実習を受けることができない。遅刻や欠席は原則として認めない。やむを得ない場合、または、欠席した時の内容については、自主的に質問・実習指導を受ける。</p>						
事前・事後学習（内容・時間）	<p>毎回、授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（30分程度）</p> <p>毎回、授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（60分程度）</p> <p>毎回、授業内で指示するしないようについて、事前に調べて授業に参加すること（60分程度）</p>						
成績評価	原則として毎回出席のこと。実習で行う指導が聞けてない場合は、個別の補講授業にて指導を行う場合があります。						
評価項目	割合		評価基準				
授業参加姿勢および発言	30%		取り組む姿勢や授業中の発言・報告などで評価します。				
提出物	50%		記録の内容・適切な表現などで評価します。				
グループワークの参加度	20%		カンファレンスやグループワークを通して理解度を確認します。				
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 ガイダンス・実習とは何か 実習の意義と目的</p> <p>第2回 実習先の理解（在宅サービス1 高齢者施設・通所介護・グループホーム他）</p> <p>第3回 実習先の理解（在宅サービス2 障害児者施設：生活介護他）</p> <p>第4回 介護実習Ⅰの目的と介護実習目標</p> <p>第5回 記録・報告の必要性、記録の書き方（日々の目標）</p> <p>第6回 記録の書き方（日々の記録）</p> <p>第7回 実習の心構え</p> <p>第8回 事前訪問、施設オリエンテーション</p> <p>第9回 カンファレンス、グループディスカッション</p> <p>第10回 帰校日 実習中間指導Ⅰ 実習記録の確認</p> <p>第11回 帰校日 実習中間指導Ⅱ 実習の学びの情報交換 グループワーク</p> <p>第12回 帰校日 実習中間指導Ⅲ 実習の学びの情報交換 グループワーク</p> <p>第13回 帰校日 実習中間指導Ⅳ 実習の学びの情報交換 グループワーク</p> <p>第14回 実習の学びのまとめ②発表</p> <p>第15回 介護実習Ⅱへ向けた目標と課題</p> <p>※以下の授業計画は、受講学生の状況により授業計画を変更することもある</p>						
ナンバリング	WSJMM6001						

開講年度・開講学期	2020年度 秋学期		授業コード	28810			
科目	2881 介護総合演習 2		授業種別	週間授業			
担当教員	村上 貴子		単位数	1			
その他担当者							
授業概要	<p>本科目は、「介護実習Ⅱ」を効果的に実習するための実習指導である。</p> <p>具体的には、</p> <p>①実習前には、実習の意義、目的について学び、介護実習に向けての心構えをする。また、実習の目標に対する予備知識や自己目標をたて、具体的に実習で何を学ぶのかを理解する。</p> <p>②実習中には、実際の記録の書き方の指導を受け、自分の行っていることの報告をする。</p> <p>③実習後には、振り返りを行い、ケーススタディに向けた自己の課題を明確にする。</p> <p>方法としては、グループワーク、ディスカッション、個別指導を通して、自己覚知する。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	○				○		
授業の到達目標	<p>①実習前には、実習の意義、目的について説明することができる。</p> <p>②実習前に、実習先の施設の概要について理解し、どのような知識や技術が必要かを説明できる。</p> <p>③実習中は、自己目標を意識した実習をすることができる。</p> <p>④実習中は、指導者からのアドバイスを活かした実習をすることができる。</p> <p>⑤実習中のカンファレンスは、準備をして積極的に参加し建設的な思考と発言することができる。</p> <p>⑥実習後は、グループワーク、ディスカッション、個別指導を通して振り返りを行い、自己の課題を明確することができる。</p>						
テキスト（教科書）	最新 介護福祉士養成講座第10巻『介護総合演習・介護実習』編集介護福祉士編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5770-0						
参考書および参考文献							
受講条件	【必須科目】介護福祉士養成施設で行う実習にむけて必要な心構えや重要な手続きなどについてガイダンスを行う。そのため、実習は、この講義を受けており、必要事項が遂行されなければ自習を受けることができない。したがって、遅刻や欠席は原則として認めない。やむを得ない場合、欠席した時の内容については、自主的に質問等を行うようにすること。						
事前・事後学習（内容・時間）	<p>毎回、授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（30分程度）</p> <p>毎回、授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（60分程度）</p> <p>毎回、授業内で指示するしないようについて、事前に調べて授業に参加すること（60分程度）</p> <p>希望実習施設のパンフレット等の資料をそろえ、事前に施設のイメージを持つこと。</p>						
成績評価	原則として毎回出席のこと。 実習で行う指導が聞けてない場合は、個別の補講授業にて指導を行う場合があります。						
評価項目	割合		評価基準				
課題提出	50%		課題に対する適切な内容・記述になっているのか評価する。				
グループワークの参加度	20%		積極性・自発的発言など評価				
実習に対する積極性と施設への理解度	30%		施設実習時における自発的意見とコミュニケーション力の総合評価				
授業の実施方法と授業計画	<p>※以下の授業計画は、受講学生の状況により授業計画を変更することもある。</p> <p>第1回 実習Ⅱオリエンテーション介護実習Ⅱの意義と目的</p> <p>第2回 施設の理解</p> <p>第3回 実習目標、実習の心構え</p> <p>第4回 記録の書き方①（自己の実習目標の立て方）</p> <p>第5回 記録の書き方②（日々の実習のイメージ作りと日々の目標）</p> <p>第6回 記録の書き方③（情報収集・分析）</p> <p>第7回 記録の書き方④（分析・計画立案の書き方）</p> <p>第8回 各自の実習施設の事前理解</p> <p>第9回 事前訪問、施設オリエンテーション</p> <p>第10回 帰校日 事例検討（受け持ち利用者について・情報収集）</p> <p>第11回 帰校日 事例検討（受け持ち利用者について・情報収集）</p> <p>第12回 帰校日 事例検討（分析・計画立案）</p> <p>第13回 帰校日 事例検討（実施）</p> <p>第14回 事例検討（評価）、実習の振り返り、お礼状作成</p> <p>第15回 まとめ</p>						
ナンバリング	WSJMM6002						

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期				授業コード	28850		
科目	2885 介護実習				授業種別	春学期(週間授業 実習)、秋学期(週間授業)		
担当教員	大林 博美				単位数	7		
その他担当者	村上 貴子							
授業概要	<p>◇介護実習Ⅰは、様々な地域生活の場の介護サービスの実践を通して、利用者や家族とのコミュニケーションとの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通して、介護福祉士の役割について理解する。施設や事業所の実習担当者や職員にアドバイスを受けながら学習し、担当教員から週1回の巡回指導を受ける。</p> <p>◇介護実習Ⅱは、利用者のよりよい生活を支援するため、個性を理解し、利用者の生活課題を明確にするため介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護過程を展開する。</p> <p>他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。この実習では、指導者のスーパービジョンを受けながら、利用者の状況に応じた支援についてアセスメント能力を養い、適切な介護福祉計画を立てる。また、介護職員を中心に、施設職員の職種と役割、職種間の連携を理解し、利用者の状況に応じて適切な支援技術を身につける。</p>							
ディプロマポリシーとの関連性	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5			
	◎	○	◎	◎	◎			
授業の到達目標	<p>介護実習Ⅰ：</p> <p>①個別ケアを行う際の個々の生活のリズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にする為の利用者ごとの介護計画の作成することができる。</p> <p>②実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供を基本となる実践力を習得することができる。</p> <p>介護実習Ⅱ</p> <p>①利用者の心身の状態に応じて求められる生活支援技術を身につけることができる。</p> <p>②受け持ちケースの状態に応じた介護福祉計画を通して、アセスメント能力を身につけることができる。</p> <p>③介護職員を中心に、施設職員の職種と役割、職種間の連携の必要性を説明することができる。</p>							
テキスト(教科書)	特になし							
参考書および参考文献	特になし							
受講条件	<p>以下の条件が満たされていない場合は、実習への準備がなされていないものとし、実習を受けることができない</p> <p>①各実習に必要な事前指導を「介護総合演習の講義」で行うため、「介護総合演習」で必要な指導を受けることが実習条件となる。</p> <p>②実習中は、体調管理を行い、体調不良の場合は、早めに受診を行なうようにする。</p> <p>やむを得ず遅刻、欠席した場合、原則として本人が8時00分から8時半までに、施設と担当教員に連絡を行なう。自己判断をしないように相談をする。</p> <p>※再実習の場合は、必要な手続きを行なう。</p>							
事前・事後学習(内容・時間)	<p>授業で学んだ介護技術の確認を実習前に行う。</p> <p>介護実習に伴い、必要と思われる内容を事前にテキストなど内容を熟読しておく。</p> <p>実習で学んだ技術及び内容は確実にできるようにしておくこと。</p>							
成績評価	<p>・指導者評価を参考に巡回指導時におけるカンファレンスにて評価します。</p> <p>・実習課題の到達度評価・諸記録・実習進捗状況の到達度評価します。</p> <p>・理由なき遅刻、早退、記録の未提出など減点の対象とすることがあります。</p>							
評価項目	割合		評価基準					
実習課題	50%		指導者評価を参考に実習課題の到達度を評価する。					
実習到達度	25%		実習進捗状況の到達度を評価する。					
実習記録	25%		記録の内容・適切な表現など					
授業の実施方法と授業計画	<p>※以下の授業計画は、受講学生の状況により授業計画を変更することもある。</p> <p>介護実習Ⅰ(12日間)</p> <p>1)訪問介護実習・同行援護・行動援護</p> <p>①地域生活をしている利用者・家族とのコミュニケーションを実践し、利用者・家族のニーズを理解する。</p> <p>②居宅に必要な生活支援技術を確認し、利用者の心身の状態、その暮らし、暮らしや環境を踏まえた様々な生活の場における介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>③多職種協働や関係機関との連携を通して介護の特性を理解する。</p> <p>2)障害者地域生活介護実習</p> <p>①利用者の心身の状態に応じて障害に応じた生活支援技術を身につける。</p> <p>②指導者のスーパービジョンを受けながら、障害の特性に応じたコミュニケーション能力を養う。</p> <p>③多職種協働や関係機関との連携を通して介護の特性を理解する。</p> <p>3)高齢者地域生活介護実習</p> <p>①高齢者の心身の状態とニーズを理解し、基礎的な介護を実践できる。</p> <p>②多職種協働や関係機関との連携を通して介護の特性を理解する。</p> <p>基礎実習1から3は以下の流れで起こす</p> <p>1日目</p> <p>・オリエンテーション・実習施設の1日の流れを知る・利用者の1日の生活の流れを知る</p> <p>・様々な利用者とのコミュニケーションを図る。・ケースを検討する。・支援内容の見学</p> <p>2日目</p> <p>・実習内容の見学・実施・指導者からの助言を受けながら受け持ちケースを決定し情報収集を開始する。・利用者を中心に様々な利用者に関わり理解を深める</p> <p>3日目</p> <p>・ケースの情報収集を行う①ケース記録票、②項目観察チェックリスト③経過記録を整理し利用者理解をする</p> <p>・支援内容の見学・実施</p> <p>4日目</p> <p>・スーパービジョンを受けながら、ケースの理解、支援内容・方法の理解に努める</p> <p>・他職種との連携について学ぶ。機関との関連について学ぶ。支援内容の見学・実施</p> <p>対象施設は、通所介護、通所リハビリテーション・グループホーム・訪問介護・生活介護(84時間)</p> <p>介護実習Ⅱ16日間</p> <p>【実習先】</p> <p>以下のような流れで行う</p> <p>特別養護老人ホーム、老人保健施設・身体障害者支援施設</p> <p>受け持ち利用者決定する。</p> <p>情報収集を行なう</p> <p>情報の分析を行なう</p> <p>介護計画を立案する</p> <p>実践を行なう</p> <p>評価を行なう</p> <p>1日目</p> <p>・オリエンテーション・実習施設の1日の流れを知る・様々な入居者とコミュニケーションを図り、受け持ちご利用者を検討する。</p> <p>2日目</p> <p>・対象ご利用者の検討・決定をする。</p> <p>・指導者からの助言を受けながら受け持ちご利用者を確定し、情報収集を開始する。</p> <p>・受け持ち利用者を中心に様々な利用者に関わり理解を深める</p> <p>3日目</p> <p>・受け持ち利用者の情報を①受け持ち利用者の記録票②項目観察チェックリスト③受け持ち経過記録に整理しながら理解する。</p> <p>4日目</p> <p>・スーパービジョンを受けながら受け持ち利用者の情報収集と理解に努める。</p> <p>5日目</p> <p>・受け持ちケースの情報収集・分析図を作成する。</p> <p>・介護福祉計画を立案する。</p> <p>・支援内容の計画を立てる。</p> <p>6日目</p> <p>・指導者からスーパービジョンを受けながら介護福祉計画の実施上の課題を明確にする。</p> <p>・支援内容の計画・実施</p> <p>7日目</p> <p>・指導者からスーパービジョンを受けながら介護福祉計画の実施上の課題を明確にして修正する。</p> <p>・支援内容の計画・実施</p> <p>8日目</p> <p>・指導者からスーパービジョンを受けながら介護福祉計画の実施・評価し修正する。</p> <p>・支援内容の実施・結果</p> <p>9日目～16日目</p> <p>・指導者からスーパービジョンを受けながら介護福祉計画の実施し、評価を活かしながら修正する。</p> <p>①受け持ちケース介護福祉計画の再アセスメント</p> <p>②利用者の状態に応じた個別かつ具体的な支援内容について検討し具体的な解決方法の見直しを行う。</p> <p>・他職種業務の見学</p> <p>・他職種との連携を学ぶ</p> <p>・支援内容の実施</p> <p>介護福祉計画の総合評価</p>							
ナンバリング	WSAM6002							

開講年度・開講学期	2020年度 春学期		授業コード	28860			
科目	2886 発達と老化の理解		授業種別	週間授業			
担当教員	野口 恵美		単位数	2			
その他担当者							
授業概要	1 人間の成長と発達の基礎的理解をする 2 発達の定義、発達段階、発達課題を学ぶ 3 老年期の定義と発達課題を学ぶ 4 老化に伴うところの変化と日常生活を学ぶ 5 老化に伴うからだの変化と日常生活を学ぶ 6 高齢者の疾患と生活上の留意点を学ぶ 7 高齢者に多い疾患と日常生活上の留意点を学ぶ 8 保健医療職との連携を学ぶ						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎				○		
授業の到達目標	・人間の成長と発達の基礎的理解ができる ・老年期の発達と成熟について説明できる ・老化に伴うところとからだの変化と日常生活の説明をすることができる ・老年期を発達段階の最終章ととらえて生活支援のアセスメントができる ・高齢者と健康について説明できる ・高齢者の尊厳とQOLについて考え、自分の介護福祉観を養うことができる						
テキスト（教科書）	テキスト 最新・介護福祉士養成講座 12 「発達と老化の理解」 中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5772-4						
参考書および参考文献	特になし						
受講条件	『履修条件はありません』						
事前・事後学習（内容・時間）	予習・復習の内容 1. 毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと。（第2回～14回／30分程度） 2. 授業で学び得たことについてレポートを作成すること。（第1回～14回／60分程度） 3. 授業内で支持する内容について、事前に調べて学外演習に参加すること。（第5回、第10回／60分程度） 4. 毎回行った『小テストの復習』を行い定期試験に臨むこと。						
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。						
評価項目	割合	評価基準					
定期（筆記）試験	60%	筆記試験にて理解度を確認する。					
小テスト	20%	講義内容の理解度を確認する					
課題レポート	20%	課題レポートは期日厳守とし、レポート用紙にて提出とする。適切な内容・記述になっているのかを評価する。					
授業の実施方法と授業計画	※以下の授業計画は、受講学生の状況により授業計画を変更することもある。 第1回 人間の成長と発達の基礎的理解 第2回 老年期の定義 第3回 老年期の発達課題 第4回 高齢者と健康 第5回 老化に伴う心身の変化の特徴 【学外演習】 第6回 老化に伴う心身の変化の特徴 第7回 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 第8回 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 第9回 高齢者の心理 第10回 高齢者の疾患と生活上の留意点 【学外演習】 第11回 高齢者の疾患と生活上の留意点 第12回 高齢者に多い疾患とその日常生活上の留意点 第13回 高齢者に多い疾患とその日常生活上の留意点 第14回 保健医療職との連携 第15回 まとめ						
ナンバリング	WSCM6001						

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期				授業コード	28870		
科目	2887 認知症の理解				授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	大矢 日信				単位数	2		
その他担当者	細田 和子							
授業概要	<p>社会的な存在である人間が一端成長と発達した後に、脳の病的変化により、知的な障害が生じ、認知機能が低下し、日常生活、社会生活、職業生活に障害が生じたとき、本人が障害を抱えて生活をしていくための支援に必要な基礎的な知識を習得する。</p> <p>認知症の原因疾患と進行段階に応じた身心の変化や行動・心理症状を理解する。</p> <p>認知症の人が、住み慣れた地域で生活を続けていくためには、家族や地域の理解と協力、医療や看護、介護の連携も必要である。認知症の人の生活を地域で支えるための基礎知識を習得する。</p> <p>介護過程と生活支援のカリキュラムを基本に、認知症による生活課題をアセスメントする知識と技術を習得する。</p> <p>学外演習を通して、授業で学んだことを確認をする。授業内で実施した小テストや課題等については、授業の中でフィードバックします。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5			
ディプロマポリシーとの関連性	◎				◎			
授業の到達目標	<p>① 認知症ケアの歴史を知り、取り巻く社会的環境を説明することができる。</p> <p>② 認知症の医学的定義と主な原因疾患と進行段階の特徴とケアの留意点を説明できる。</p> <p>③ 認知症の人の心理、内的世界を説明できる。</p> <p>④ 認知症に伴う生活への影響をICFを基本に本人主体（パーソンセンタードケア）の視点でアセスメントできる。</p> <p>⑤ アセスメントした結果を多職種と意見交換しケアプランを作成し、認知症があっても住み慣れた地域での生活が継続できるための連携や協働のケアを実践できる。</p> <p>⑥ 家族介護者の思いを聴くことができる。家族介護者の介護の努力や工夫を受け止めることができる。家族介護者の課題を理解できる。家族介護者に原因疾患の特徴や認知症の人の心理（思い）を伝えることができる。ケアの工夫や助言を行うことができる。</p>							
テキスト（教科書）	<p>新・介護福祉士養成講座 第13巻 『認知症の理解』 編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 ISBN 978-4-8058-5309-2</p>							
参考書および参考文献	<p>最新 介護福祉全書 第10巻「認知症の理解と介護」 編集：中村裕子 メジカルフレンド社 ISBN 978-4-8058-3770-2</p> <p>「ボクはやっと認知症のことがわかった」 著者：長谷川和夫 猪熊律子 角川書店 ISBN 978-4-0460-4499-0</p>							
受講条件	履修必須科目							
事前・事後学習（内容・時間）	<p>毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと。（第2～13回／15回）</p> <p>毎授業後に小テストを行い、授業で得た学びについて振り返る。（第2回～13回／15回）</p> <p>授業内で指示する内容について、レポートを作成すること。（15回）</p> <p>授業内で指示する内容について、レポートを作成し発表する。（13回）</p> <p>授業内で指示する内容について、事前に調べて学外演習や、授業に参加すること。（4回／第2～13回）</p> <p>第16回定期試験『小テストの復習』を行い、定期試験範囲の復習を行うこと（第14回～15回）</p>							
成績評価	原則として毎回出席をすること。授業の達成目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。							
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	20%	筆記試験にて理解度を確認する						
プレゼンテーション	20%	講義内容の理解度を確認する						
課題レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているのかを評価する。						
社会活動	40%	わかばプロジェクト等の社会啓発実践での取り組み						
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 ガイダンス「認知症の第一人者が認知症になった」NHKドキュメンタリー ディスカッション 大矢</p> <p>第2回 認知症を取り巻く状況②（認知症高齢者の現状と今後）認知症を取り巻く状況③（認知症施策とケアの理念）講義 ディスカッション 大矢</p> <p>第3回 医学的側面から見た認知症の基礎①（認知症とは何か、認知症の概念）フィールドワーク 大矢</p> <p>第4回 医学的側面から見た認知症の基礎②（認知症にみられる特徴的な症状）フィールドワーク 大矢</p> <p>第5回 認知症の人の医学・行動・心理的理解①（認知症の人の行動・心理症状 フィールドワーク 大矢</p> <p>第6回 認知症の人の医学・行動・心理的理解②（認知症の人の行動・心理症状 フィールドワーク 大矢</p> <p>第7回 医学的側面から見た認知症の基礎③（脳のしくみと認知症のある人の特徴的な心の理解フィールドワーク・振り返り 大矢</p> <p>第8回 医学的側面から見た認知症の基礎④（脳のしくみと認知症のある人の特徴的な心の理解演習 大矢</p> <p>第9回 医学的側面から見た認知症の基礎⑤（認知症の原因となる主な病気の症状と特徴）講義大矢</p> <p>第10回 医学的側面から見た認知症の基礎⑥（認知症の原因となる主な病気の症状と特徴）講義大矢</p> <p>第11回 医学的側面から見た認知症の基礎⑦（認知症の検査・治療・予防）講義・演習 大矢</p> <p>第12回 医学的側面から見た認知症の基礎⑧（認知症と間違えられやすい状態）講義 大矢</p> <p>第13回 まとめ（第1回～14回までの内容をまとめて発表する）プレゼンテーション 大矢</p> <p>第14回 認知症を取り巻く状況④（認知症高齢者の生活の場と基礎知識）細田</p> <p>第15回 認知症の人の生活理解①（環境の力・生活を続ける）※学外演習 細田</p> <p>第16回 認知症の人の生活理解②（認知機能の変化が生活に及ぼす影響）※学外演習 細田</p> <p>第17回 認知症に伴うところからの変化と日常生活①（認知症の人へのかかわりの基本）</p> <p>第18回 認知症に伴うところからの変化と日常生活②（認知症の人への気づき）細田</p> <p>第19回 認知症に伴うところからの変化と日常生活③（認知症の人の介護過程）細田</p> <p>第20回 認知症に伴うところからの変化と日常生活④（認知症の進行に応じた介護）細田</p> <p>第21回 認知症に伴うところからの変化と日常生活⑤（人が生きることを支えるということ）細田</p> <p>第22回 連携と協働①（地域におけるサポート体制）細田</p> <p>第23回 連携と協働②（チームアプローチ）細田</p> <p>第24回 家族への支援①（家族の認知症の受容の過程での援助）細田</p> <p>第25回 家族への支援①（家族の認知症の受容の過程での援助）細田</p> <p>第26回 家族への支援②（家族の介護力の評価とケア）細田</p> <p>第27回 認知症に関する制度・関係機関①（認知症対策と介護保険制度）細田</p> <p>第28回 まとめ（第14回～27回までの内容をまとめて発表する）プレゼンテーション 細田</p> <p>第29回 まとめ①（認知症の人の尊厳を守るケアについて考え発表する）プレゼンテーション 大矢</p> <p>第30回 まとめ②（認知症の人の尊厳を守るケアについてのまとめ）国家試験対策 大矢</p> <p>※但し受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある</p>							
ナンバリング	WSCM6002							

開講年度・開講学期	2020年度 春学期		授業コード	28880			
科目	2888 障害の理解		授業種別	週間授業			
担当教員	大林 博美		単位数	1			
その他担当者	熊谷 享子、葛谷 潔昭						
授業概要	本講義では、保育士養成課程で学んだ（障害児保育・施設実習等）を踏まえて、障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。障害の基礎的理解、障害と医学的側面の基礎的知識を身につける。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎				○		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者支援の基礎的な知識・技術について理解し、各障害に合わせた介護の留意点ができる ・ 障害者福祉の理念について理解し、介護の基本的視点について説明することが出来る。 ・ 障害がある人を取り巻く家族の支援のあり方について説明出来る 						
テキスト（教科書）	最新 介護福祉士養成講座第14巻『障害の理解』編集介護福祉士編集委員会：中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5774-8						
参考書および参考文献	医療保育セミナー 日本医療保育学会編 建帛社 ISBN978-4-7679-5033-4						
受講条件	必修科目						
事前・事後学習（内容・時間）	毎回、授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（30分程度） 毎回、授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（60分程度） 毎回、授業内で指示するしないについて、事前に調べて授業に参加すること（60分程度） 第16回定期試験（小テスト等の復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと）（120分程度）						
成績評価	以下のとおりです。						
評価項目	割合		評価基準				
課題レポート	20%		課題に対して適切な内容になっているかを確認します。				
定期試験	60%		筆記試験にて、理解度を確認します。				
小テスト	20%		筆記試験にて、理解度を確認します。				
授業の実施方法と授業計画	【第1回】ガイダンス 【第2回】（肢体不自由）（難病）【大林】 【第3回】（発達障害）【熊谷】 【第4回】（知的障害）【熊谷】 【第5回】（重度心身障害児）【大林】 【第6回】（視覚・聴覚・言語障害）【大林】 【第7回】（内部障害①）【大林】 【第8回】（内部障害②）【大林】 【第9回】（内部障害③）【大林】 【第10回】（精神障害）【大林】 【第11回】（高次脳機能障害）【大林】 【第12回】1回～12回 まとめ【大林】 【第13回】（知的障害）【葛谷】 【第14回】障害の基本的理解・障害者の権利条約（制度の概要・関連制度）【葛谷】 【第15回】障害者福祉の基本的理念 / 障害のある人の基本的視点【葛谷】 ※ 毎回、講義前に小テスト、講義終了後に確認テストを実施します。						
ナンバリング	WSCM6003						

開講年度・開講学期	2020 年度 春学期～秋学期				授業コード	28890		
科目	2889 こころとからだのしくみ				授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	芝田 郁子				単位数	2		
その他担当者								
授業概要	<p>1. 人体の構造や機能を学び、こころとからだの両面から利用者の状況を観察して、その状態がどのような要因から引き起こされているのかを学ぶ。そして、生活支援に必要な介護方法の根拠を説明し、個々の利用者にとって、適切な介護の提案ができることを目指す。</p> <p>2. こころとからだは相互に影響し合い、意欲や行動などに影響を及ぼしていることを理解したうえで、移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみについて、生活を支える介護の実践の中で理解する。</p> <p>3. 加齢に伴う機能低下・障害が生活場面に及ぼす影響を知り、利用者の変化に気づく能力を養う。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5			
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○					
授業の到達目標	<p>1. 生活支援のために必要とされる基礎的な人体の構造や機能、こころのしくみを説明できる。</p> <p>2. 加齢や病気等におけるこころとからだの状態の変化を理解できる。</p> <p>3. こころとからだの機能低下が日常生活動作等に及ぼす影響を理解し、介護実践の根拠として説明できる。</p> <p>4. 潜在能力を引き出し利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を考えることができる。</p> <p>5. 生活場におけるこころとからだの状態変化に気づく観察の重要性を学び、医療関係職種と連携が取れる。</p>							
テキスト（教科書）	<p>最新介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 編集 介護福祉士養成講座編集委員会 発行 中央法規出版株式会社 定価 2860（税込） ISBN 978-4-8058-5771-7</p>							
参考書および参考文献	<p>大澤智恵子著：「介護現場で生かすフィジカルアセスメント」中央法規 2016 2,600（税別） 荒井千明著：「いつもと違う高齢者をみたら 在宅・介護施設での判断と対応」医歯薬出版株式会社 2016 2,600（税別） 佐藤禮子監修：「絵で見るターミナルケア」学研メディカル秀潤社 2015 3,200（税別） 高橋聡美編集「グリーンケア」メヂカルフレンド社 2015 2,400（税別） ※NHK「きょうの健康」も参考になります。 その他、随時紹介</p>							
受講条件	特になし							
事前・事後学習（内容・時間）	<p>予習・復習の内容（2時間相当）</p> <p>1. 毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと。</p> <p>2. 毎授業後に授業で得た学びについてまとめ、専門用語を整理しておくこと。</p> <p>3. 授業内で指示する内容について、事前に調べて授業に参加すること。</p> <p>4. 定期試験（小テストの復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと）</p>							
成績評価	原則として毎回出席すること。知識の確認のため定期試験のほか、小テストを実施したり、レポート提出を求めます。課題をグループで討論する場合は参加度や積極的な発言などを評価する。							
評価項目	割合	評価基準						
レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているのかを評価する						
小テスト	30%	講義の内容の理解度を確認する。						
定期試験	50%	筆記試験にて理解度を確認する						
授業の実施方法と授業計画	<p>第 1 回 こころのしくみの理解①健康 ②人間の欲求 第 2 回 こころのしくみの理解③自己概念、記憶・感情・意欲 第 3 回 生命の維持と恒常性、心身の調和 第 4 回 人体各部の構造と病気の理解（骨・筋肉系、神経系）① 第 5 回 人体各部の構造と病気の理解（骨・筋肉系、神経系）② 第 6 回 人体各部の構造と病気の理解（循環器系、呼吸器系）① 第 7 回 人体各部の構造と病気の理解（循環器系、呼吸器系）② 第 8 回 人体各部の構造と病気の理解（消化器系、内分泌系）① 第 9 回 人体各部の構造と病気の理解（消化器系、内分泌系）② 第 10 回 人体各部の構造と病気の理解（腎・泌尿器系、生殖器系）① 第 11 回 人体各部の構造と病気の理解（腎・泌尿器系、生殖器系）② 第 12 回 人体各部の構造と病気の理解（感覚器系）① 第 13 回 人体各部の構造と病気の理解（感覚器系）② 第 14 回 人体各部の構造と病気の理解（血液・リンパ節） 第 15 回 まとめ 中間テスト 第 16 回 フィジカルアセスメント（バイタルサイン） 第 17 回 移動のしくみ 第 18 回 心身の機能低下が移動に及ぼす影響・変化の気づき 第 19 回 身じたくのしくみ 第 20 回 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響・変化の気づき 第 21 回 食事のしくみ 第 22 回 心身の機能低下が食事に及ぼす影響・変化の気づき 第 23 回 入浴・清潔保持のしくみ 第 24 回 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響・変化の気づき 第 25 回 排泄のしくみ 第 26 回 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響・変化の気づき 第 27 回 休息・睡眠のしくみ 第 28 回 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響・変化の気づき 第 29 回 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 第 30 回 まとめ 卒業試験対策 ※但し受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>							
ナンバリング	WSCM6004							

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期				授業コード	28920		
科目	2892 医療的ケア 2				授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	大林 博美				単位数	2		
その他担当者	今泉 真理子							
授業概要	<p>医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を講義、演習を通して学ぶ。1. 喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順方法を理解する。2. 経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順方法を理解する。3. 安全な喀痰吸引等の実施のため、確実な手技を習得する。・「演習」の回数はア 喀痰吸引：口腔5回以上、鼻腔5回以上、気管カニューレ内部5回以上イ 経管栄養：胃ろう又は腸ろう5回以上、経鼻経管栄養5回以上を行い、5回目にはすべての項目において手順どりに実施できたことを確認した上で、実技試験を実施します。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○			○			
授業の到達目標	<p>1. 呼吸のしくみと痰の吸引について説明できる。 2. 安全で適切な痰の吸引の手順や考えられるリスクや留意点が説明できる。 3. 痰の吸引の実践が安全・安楽に一人で行える。 4. 経管栄養の実践が安全・安楽に一人で行える。 5. 緊急時の蘇生法が一人で行える。</p>							
テキスト（教科書）	最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 編集 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5775-5							
参考書および参考文献	適時、紹介をする。							
受講条件	<p>【介護実習室での演習を行なう場合の注意点】 必ずユニフォームを着用すること。 また、髪の毛は実技の邪魔にならないようにして、実技を受けること。（顔に髪がかかるなどする場合は、髪の毛の長さが短くても、ピンで留める。 なお、ユニフォームを忘れた場合は、受講できません。</p>							
事前・事後学習（内容・時間）	<p>毎回、授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（30分程度） 毎回、授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（60分程度） 毎回、授業内で指示するしないについて、事前に調べて授業に参加すること（60分程度） 定期試験（小テスト等の復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと）（120分程度） 医療的ケアは、安全に行う必要があり、生命に関わる行為であることから、演習で学んだ内容は筆記試験、実技試験の習得にむけて、自己学習し実技の演習をしてください。 ■毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと。（第2回～第28回） ■毎授業後に小テストを行い、授業で得た学びについて振り返る。（12回/毎講義時に実施） ■授業内で指示する内容について、課題を提出すること。（第6回・第18回） ■授業内で指示する内容について、レポート等を作成する。（5回/第2～第28回） ■定期試験『小テストの復習』を行い、定期試験範囲の復習を行うこと（第14回～第15回）</p>							
成績評価	<p>遅刻・早退や劣悪な受講態度は態度減点の対象とする場合があります。 ①医療的ケアに関する基礎知識、痰の吸引についての講義が終了後、筆記試験を行う。筆記試験は100点満点中70点以上を合格とする。②痰の吸引の実技については、シュミレーターを用いて各々吸引の実施チェックを5回以上行う。③経管栄養、救急蘇生についても実技試験を行う。</p>							
評価項目	割合	評価基準						
小テスト	20%	講義内容の理解度を確認する。						
実技試験	40%	実技の習得度の確認をする。						
定期試験	40%	筆記試験にて理解度の確認をする。						
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 第1部 医療的ケアの実施の基礎【大林】 第6章 健康状態の把握 I 身体・精神の健康 II 健康状態と知る項目（バイタルサインなど） III 急変状態について 第2回～第16回まで【今泉】 第2回 第4章 安全な療養生活【今泉】 I 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 II 救急蘇生 A 救急蘇生が必要なのはどのようなときか B 救急蘇生法の手順と留意点 第3回 第1章 高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」 I 呼吸のしくみとはたらき II いつもと違う呼吸状態 III 喀痰吸引とは IV 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 V 人工呼吸器と吸引 VI 子どもの吸引について VII 喀痰吸引にともなうケア VIII 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 呼吸器系の感染と予防（吸引に関連して） IX 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認 第10回 X 急変・事故発生時の対応と事前対策 第11回 XI 報告及び記録 第12回 手順 喀痰吸引の実施手順 第13回 手順 喀痰吸引の実施手順 第14回 手順 喀痰吸引の実施手順 第15回 喀痰吸引の留意点 考えられるリスクのまとめ 第16回 ①口腔内鼻腔内の喀痰吸引の演習 第17回～第30回まで【大林】 第17回 ②口腔内鼻腔内の喀痰吸引の演習 第18回 ③気管カニューレ内の喀痰吸引の演習 第19回 ④胃瘻、腸瘻の経管栄養の演習 第20回 ⑤胃瘻、腸瘻の経管栄養の演習 第21回 ⑥経鼻経管栄養の演習 第22回 ⑦経鼻経管栄養の演習 第23回 ⑧喀痰吸引・経管栄養の演習のまとめ 第24回 ①～⑦演習 第25回 ①～⑦演習 第26回 ①～⑦演習 第27回 試験 ①～③ 第28回 試験 ①～③ 第29回 試験 ④～⑦ 第30回 試験 ④～⑦ *但し受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある</p>							
ナンバリング	WSBM6008							